

**医療法人腎愛会**

**平成 27 年度年報**

**平成 28 年 9 月**

**上山病院**

**うえやま腎クリニック**



上山病院



うえやま腎クリニック



法人本部



医療法人腎愛会

上山病院

〒890-0073  
 鹿児島市宇宿 3 丁目 17-6  
 T E L 099-257-2277  
 F A X 099-252-0722

うえやま腎クリニック

〒890-0073  
 鹿児島市宇宿 4 丁目 39-20  
 T E L 099-275-3211  
 F A X 099-275-3212

法人本部

〒890-0073  
 鹿児島市宇宿 3 丁目 21-5  
 T E L 099-259-8811  
 F A X 099-259-8469

## 医療法人腎愛会 平成 27 年度版年報の発行にあたって

日頃より医療法人腎愛会の運営にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
昭和 56 年 1 月、この宇宿の地に「上山内科クリニック」が開設してから、おかげさまで 35 周年を迎えました。ここまで来られましたのも、ひとえに患者の皆様、ご家族の皆様、地域の皆様、そして関係者の方々のお力添えのたまものと感謝いたしております。

さて、腎愛会では患者の皆様常に最良の医療を提供すべく、鹿児島市 CKD 予防ネットワークへの積極的参加など、透析医療を中心とした取り組みに日々力を入れております。

平成 27 年 12 月には標榜科として「血管外科」を新設し、透析導入時のシャント作成、腹膜透析導入時のカテーテル留置から透析シャントの管理、シャントトラブルへの対応について、院内のみならず、近隣の透析施設様からの受け入れを可能とするサポート体制を整えました。

全国の透析患者数も平成 26 年 12 月 31 日の段階で 320,448 名となり、前年より 6,010 名の増加となっています。透析導入患者の平均年齢は 69 才で、最多導入時年齢は男性 75 才～80 才、女性 80 才～85 才と高齢化が著しく、合併症をもつ患者さんも多いことから、透析患者さんの要介護認定率も全体に比して高率であります。

このような状況を鑑み、平成 27 年 3 月には「医療法人腎愛会 上山病院 高齢透析患者介護関連実態調査」(集計結果を 50 ページに掲載)を行いました。そして平成 28 年度はその調査範囲を拡げ、当法人が事務局を務めております鹿児島県透析医会の会員施設のうち 29 施設に同調査のご協力をいただき、現在、集計作業を行っております。こちらの結果につきましても、集計作業が終了次第、同会より発信する予定となっております。

また、透析患者様の住居の問題、通院の問題など、今後解決しなければならない問題も山積しておりますが、当法人ではその一助となるべく、平成 29 年 1 月に「高齢者福祉複合施設光陽」を開設いたします。サービス付き高齢者向け住宅、デイサービス、訪問看護ステーション、ケアプランセンターを併設し、宇宿地区の介護・在宅医療の一拠点として、地域の皆様のお役に立てるものと確信しております。

平成 28 年度の診療報酬改定は私達にとって大変厳しいものでしたが、これからも、透析医療の専門機関としてのみならず、介護・在宅医療分野へも積極的に取り組み、「地域のかかりつけ医」として、地域の皆様のくらしの安心を支えられるよう、腎愛会職員一丸となって邁進してまいります。

今後とも一層のご支援・ご厚誼を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 28 年 9 月

医療法人腎愛会 理事長 上山達典

ごあいさつ

2015年8月、うえやま腎クリニックの院長をされていた満枝和郎先生が定年退職されました。長年腎愛会を支え、定年まで勤めて下さりとても感謝しております。私はその後任として、9月よりうえやま腎クリニック院長としてお仕事をさせていただいています。毎日があっという間に過ぎ去ってしまい、気が付けば1年が過ぎ・・・2015年も皆様のご指導、ご協力のおかげで1年間無事に務めることができました。心より御礼申し上げます。

皆さまご存知のように厚生労働省は、2025年に向けて地域医療構想構築を推進し、予想される人口減少と高齢社会の進展、疾病構造の変化という確定的な社会構造変化を踏まえて様々な取り組みがなされているところです。そして介護提供のあり方とともに今から検討しておくべき課題は、「看取りの場」の問題とも言われています。高齢者の割合が30%を超え、病院のベッド数の不足などから人生の最後を迎える場所に困る方が年間50万人にも上るという深刻な事態は「2030年問題」として取り上げられており、2014年人口動態調査で病院・診療所が約8割と大半を占め、自宅12.8%、老人ホーム（特別養護老人ホーム、有料老人ホームなど）5.8%、介護老人保健施設2.0%となっています。当法人でもこれらに対してどのように対処していけるのか、法人の理念である『豊かな人間愛をもって、常に最良の医療を求めて最善を尽くします』をもとに多面的に検討をしていく中、2016年2月サービス付き高齢者向け住宅の建築に着手しました。このサービス付き高齢者向け住宅は、入院治療を必要としない高齢者で単身者や夫婦のみの世帯に、介護や医療と連携して高齢者を支援するサービスを提供していく住宅であり、少しでも長く住み慣れた地域で自分らしく生活できるようにと考え、当院で加療している患者の皆様はもちろん、地域の皆様に少しでもお役に立つことができるのではないかと考えています。また当法人では、昨年よりスタッフ一人一人がそれぞれにスキルアップ出来るよう、腎愛会のスタッフとして誇りをもってもらえるようにとの目的から作成した成長シートの運用が本格的に始まりました。この取り組みに関しましては、『なぜこのような面倒なことをするのか』『同じことをしていても自分は認められていない』など院内でも賛否両論様々な意見がありましたが、他人と比べるためのものではなく、個人の成長のために用いるツールとして活用していただくことが大切と考えています。

当院の目標に向かって歩き始めたばかりではありますが、確実に前に向かって進んでいます。引き続き、スタッフとともに成長していく事のできる組織づくりをしていきたいと思っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年9月

うえやま腎クリニック 院長 寺口 記代

《当院の目標》

『日本で最高の病院にしていこう！』

- ① 来られる患者さん、そのご家族が「素晴らしい治療をしてもらえて、本当によかった」と心から言っていただけの病院
- ② スタッフが「私は素晴らしい病院で働いている」と実感できる病院
- ③ 他の病院や医師から「あの病院は最高の医療を提供している」と認めもらえる病院

## 《 目次 》

ごあいさつ

1	理念・基本方針	1
2	患者様の権利について	2
3	概要	3
4	沿革	5
5	各部門の紹介・実績報告	6
6	研究実績	27
7	院内研修開催実績	29
8	1年間の主な出来事	32
9	医療機器	33
10	病院組織図	34
11	委員会活動	35
12	統計	36
	(1)患者データ【上山病院】	
	(2)患者データ【うやま腎クリニック】	
	(3)送迎データ	
	(4)職員データ	

# 1 理念・基本方針

## ■理念

私たちは、豊かな人間愛を持って、常に最良の医療を求めて最善を尽くします。

## ■基本方針

- 1) 質の高い医療を追及するために、たゆみなく研鑽します。
- 2) 医療人としての誇りを自覚し、公共のために行動します。
- 3) 温かい医療を提供するとともに、地域のために貢献します。

(平成 24 年 1 月 1 日改定)

## ■行動規範

四維（礼・義・廉・恥）

礼 礼を重んじ、感謝の気持ちを持ちます。

義 正しい道を求め、公共のために行動します。

廉 心を清らかに保ち、素直に接します。

恥 恥じることを知り、同じ過ちを繰り返さないよう創意します。

## 2 患者様の権利について

### ■患者の皆様への権利と責務

I 患者の皆様には次のような権利があります。

- 1 等しく安全で良質な医療を受ける権利があります。
- 2 治療方針・治療効果・危険性などについて知ることができます。
- 3 治療方針について、別の医師の意見を希望することができます。
- 4 診療内容などの個人情報保護されます。
- 5 医療費の詳細について、説明を受けることができます。

II 患者の皆様には次のような責務があります。

- 1 最善の医療を受けるために、病状経過・過去の治療歴などについて情報提供をしていただく責任があります。
- 2 病を克服するために、医療関係者と協働して治療に取り組む必要があります。
- 3 円満な医療を受けるために、病院や社会生活上のルールやマナーを守る必要があります。
- 4 診療上必要な医療費を負担する必要があります。

### ■説明と同意

医学・医療は科学技術の発展に伴って急速に進歩し、診断・治療の中身が専門的になり、理解が難しくなっています。また、高齢者が多くなり、慢性疾患が増加し、疾病構造も大きく変わっています。

そこで、患者さんやご家族におかれましては、十分な説明を受け、よく理解してから、自分の人生観に従って、主体的に生きていこうとお考えになろうかと拝察いたします。

私ども医療従事者は、このような患者さんのよりよい支援者として努めてまいりますので、ご不審な点がございましたらご遠慮なくお尋ねください。

そして、十分に理解し同意して、診療にご協力をお願いいたします。

### 3 概 要

#### 【上山病院】

- 1) 名 称：医療法人 腎愛会 上山病院
- 2) 所在地：鹿児島県鹿児島市宇宿三丁目 17-6
- 3) 開設者：上山達典
- 4) 開設年月日：平成 21 年 7 月 1 日
- 5) 管理者：上山達典
- 6) 診療科目：内科、腎臓内科、人工透析内科、循環器内科、血管外科
- 7) 延床面積：3450.48 m<sup>2</sup>
- 8) 病床数：40 床（療養病床 40 床）
- 9) 施設基準等

#### ①基本診療

療養病棟入院基本料 1、在宅復帰機能強化加算、療養病棟療養環境加算 1、  
入院時食事療養（Ⅰ）／生活療養（Ⅰ）

#### ②特掲診療

薬剤管理指導料、ニコチン依存症管理料、医療機器安全管理料 1、  
透析液水質確保加算 2、感染防止対策加算 2、患者サポート体制充実加算、  
CT 撮影及び MRI 撮影、糖尿病合併症管理料、運動器リハビリテーション料Ⅲ、  
外来リハビリテーション診療料

#### ③医療機関の指定

保険医療機関指定  
特定疾患治療研究事業委託医療機関  
障害者自立支援法指定医療機関（更正医療）  
生活保護法指定医療機関  
労災保険指定医療機関  
労災二次健診指定医療機関  
結核指定医療機関  
原爆被爆者一般疾病医療機関  
原爆被爆者二世健康診断委託事業医療機関  
特定健診医療機関  
65 歳以上インフルエンザ予防接種  
肝炎治療特別促進事業指定医療機関  
日本透析医学会教育関連施設認定  
鹿児島県女性にやさしい医療機関  
65 歳以上肺炎球菌ワクチン予防接種  
鹿児島市 CKD 予防ネットワーク腎臓診療医療機関

## 【うえやま腎クリニック】

- 1) 名称：医療法人 腎愛会 うえやま腎クリニック
- 2) 所在地：鹿児島県鹿児島市宇宿四丁目 39-20
- 3) 開設者：上山達典
- 4) 開設年月日：平成 18 年 5 月 20 日
- 5) 管理者：寺口記代
- 6) 診療科目：内科、腎臓内科、人工透析内科
- 7) 延床面積：1609.54 m<sup>2</sup>
- 8) 施設基準等

### ①特掲診療

医療機器安全管理料 1、透析液水質確保加算 2

### ②医療機関の指定

保険医療機関指定

特定疾患治療研究事業委託医療機関

障害者自立支援法指定医療機関（更正医療）

生活保護法指定医療機関

労災保険指定医療機関

原爆被爆者一般疾病医療機関

特定健診医療機関

65 歳以上インフルエンザ予防接種

65 歳以上肺炎球菌ワクチン予防接種

鹿児島市 CKD 予防ネットワーク腎臓診療医療機関

## 4 沿革

昭和56年 1月17日	上山内科クリニックを開設(職員数13名、許可病床数19床)
昭和60年 5月16日	有限会社USK企画設立(資本金300万円)
昭和60年 6月14日	看護婦寮(上山ハイツ)竣工
昭和62年 3月31日	上山内科クリニックを閉院
昭和62年 4月 1日	上山病院を開設(職員数45名、許可病床数48床)
昭和62年10月 1日	医療法人腎愛会設立(資本金8,600万円)
平成 2年 8月	Push/Pull-HDF(日機装社製)導入
平成 4年 4月 1日	じんあいクリニック開設(外来透析専門施設、無床)
平成 4年11月	Push/Pull-HDF(上山式)を開発し導入
平成 6年10月 3日	USK企画を有限会社から株式会社に改組(資本金1,000万円)
平成 7年12月25日	上山病院の増改築を実施し、2床減床(職員数73名、許可病床46床)
平成 9年 4月 1日	上山病院に泌尿器科を増科
平成11年12月30日	療養病床施設基準に対応するために上山病院を改築
平成15年 7月31日	USK企画本社ビル(現法人本部ビル)竣工
平成15年 9月 1日	上山病院の病床を「その他一般病床」から「療養病床」へ転換
平成16年10月19日	USK企画本社ビル(現法人本部ビル)、第8回鹿児島市建築文化賞受賞
平成18年 5月30日	うえやま腎クリニック開設
平成18年 7月 1日	USK企画宇宿事業所(現USK企画本社)竣工
平成20年 3月31日	じんあいクリニック閉院
平成21年 3月 1日	上山病院・うえやま腎クリニックに腎臓内科・人工透析内科を増科
平成21年 7月 1日	新上山病院へ移転(職員数124名、許可病床数40床)
平成21年10月 1日	上山病院に循環器内科を増科
平成23年 1月16日	開院30周年記念式典
平成24年 1月 6日	公益財団法人 日本医療評価機能機構 病院機能評価 Ver.6 認定
平成24年 2月 7日	次世代育成支援対策推進法基準適合一般事業主認定(厚生労働大臣)
平成25年 3月15日	日本透析医学会教育関連施設認定
平成25年 5月 8日	鹿児島県女性にやさしい医療機関指定
平成26年10月 1日	オーダーリングシステム導入
平成27年 4月 4日	福利厚生施設 霧島山荘竣工(改築)
平成27年 7月 1日	R-Zero システム(自社開発リスクマネジメントシステム)導入
平成27年12月25日	血管外科を増科
平成28年 2月18日	高齢者福祉複合施設「光陽」地鎮祭

## (1) 診療部

### 部門紹介

病院診療部は、常勤医師 4 名と非常勤医師 4 名の体制で診療にあたっております(28 年 3 月現在)。うち 1 名は心臓血管外科が専門です。外来透析、外来診療(一般外来・生活習慣病外来・禁煙外来など)、入院診療(含む入院透析)を行っております。また、腎移植医療に関して、鹿児島大学病院と連携し、サポート体制の確立を少しずつではありますが進めております。

一般外来(患者延べ数 月平均 622 名)は慢性腎疾患、高血圧、糖尿病、脂質異常症などを中心に、総合内科的機能を持ち、地域の皆様に広く受診して頂ける病院を目指しております。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

当院では、内科的管理と血管外科の医師による外科的管理が可能であり、透析シャント設置術や、バルーンカテーテルを用いた経皮的血管形成術(PTA)が行えることから、バスキュラーアクセス管理を自施設で完結できる環境が整っております。腹膜透析のカテーテル留置術と併せて、院内の手術件数も増加しており、PTAについては平成 22 年度には 70 件程度でしたが、平成 27 年度には 200 件実施と件数を重ねております。今後も引き続き、透析医療に貢献するべく技術を磨き続けたいと思います。平成 28 年度も腹膜透析患者の導入から継続的管理に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

平成 21 年より取り組んでいる禁煙外来につきましては、これまでに 43 名の方が成功されました。今後も継続して取り組み、これまで以上に成功者を増やしていけるよう努力したいと思っております。

患者様のより良い療養生活を維持するために、各種超音波診断装置や CAVI(動脈硬化指標の検査)など、非侵襲的な検査を積極的に行い、脳血管障害、心疾患、生活習慣病など、患者様の予後を悪化させる因子の早期発見に努めて参ります。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ~患者様満足度向上の取り組み~

病院を受診される患者様は何らかの苦痛、不安を抱えておられる方がほとんどです。私たちは、患者様にご自分の症状や不安を医師やスタッフに相談しやすい環境づくりに努めております。患者様の目線で、患者様と一緒に病気と向かい合う姿勢を心がけております。また、総合内科窓口として、適切な専門病院へ橋渡しすることも重要な仕事です。近隣医療機関との連携をこれから密にしながら、患者さん本位の医療に取り組んでいきたいと考えております。

### 研究・自己啓発活動について

積極的に学会発表、論文作成を行い、それぞれの専門分野の学会、研究会にも可能な限り参加し、常に最新の知識を得るように心がけております。また、各種研究会の座長や、医薬品会社の社内講演会など地域の講演会や、介護系施設への腹膜透析に関する勉強会の講師も務め、腎臓医療・透析医療に関する普及啓発にも力を入れております。(詳細は、「6 研究実績」参照)

### 地域活動について

毎年初夏に行っている「健康まつり」は、無料健康相談などを中心に、診療部も地域の方々の健康づくりに貢献したいと考えております。28 年度はサービス付高齢者向け住宅建設のため中止となりますが、29 年度以降は地域に開かれたイベント等を実施する予定です。お気軽にお越しくださいませ。

## (2) 地域連携室

### 部門紹介

社会福祉士 2 名体制で、入退院支援や外来通院患者様や外来透析患者様の在宅療養を支援して参りました。週 1 回実施されている合同カンファレンスにて患者様の支援状況の報告や、効率的な支援についての検討を行っております。

また、各部署の業務が円滑に行えるよう支援を行っております。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

平成 27 年度は「介護支援連携指導」を 15 回実施致しました。当院は医療療養病床を有し、「在宅復帰機能強化加算」を届け出ていることから、平成 27 年度は、退院後の患者様のモニタリングを 52 件実施しております。

平成 27 年 3 月に厚生労働省より示された「地域医療構想策定ガイドライン」を基に、鹿児島県でも医療圏ごとに「地域医療ビジョン」の策定が進んでおります。当院地域連携室としては、「地域医療ビジョン」に関連した政策情報等の収集や、地域連携担当者水準で取り組むことができる対策等の検討を日々行っております。また、鹿児島医療圏の透析医療において、当院がどのような立場で、どのように対応していくかを把握し、地域連携室がどのように行動すれば適切であるかを考えて業務に取り組んで参ります。

### 地域連携室 書類下書き件数

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
介護保険主治医意見書	114	97	85	92	93
身体障害者意見書	10	34	23	28	27
リハビリ診療情報提供書	41	14	6	23	22
年金関係書類(意見書)	7	15	15	19	27
その他紹介状	9	22	10	19	7
居宅療養管理指導(診療情報)	5	0	0	0	0
計	186	182	139	181	176

### 退院支援の介入件数

	H26 年度	H27 年度
介護支援連携指導	8	15
患者様モニタリング	32	52
計	40	67

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

患者様や、ご家族の皆様とお話し、様々な不安の解消や、ご要望に応えられるよう業務に取り組みました。また、入院された日から退院に向けての取り組みを行うことで、在宅復帰への患者様やご家族の皆様の不安解消に努めました。

### 研究・自己啓発活動について

平成 27 年度は地域包括支援センター主催の多職種連携会議や、地域医療構想に関する研修等に参加し、情報収集等を行いました。引き続き研修会や、自治体レベルの会議の傍聴に参加する予定です。また、上山病院にて透析加療をされている 65 歳以上の方の「介護関連調査」を実施いたしました。詳しくは別添資料をご参照ください。

### 地域活動について

宇宿中仲お達者クラブへの出前講座を 6 月、11 月の 2 回実施しました。また、地域公開講座を 5 月に実施しました。

### (3) 薬剤科

#### 部門紹介

平成 27 年 4 月は薬剤師 4 名（常勤 4 名）と調剤助手 1 名で勤務しています。業務内容は処方箋監査、疑義照会、調剤、監査、配薬、入院時の持参薬鑑定、服薬指導、院内の薬剤の適正使用に関わる事、薬品の発注、納品チェック、D I 業務、各部署の薬品管理、麻薬毒薬等の管理、統計業務など多岐にわたります。

各部署と連携をとりながら、薬の適正使用を推進するとともに、日々自己研鑽に努めていきたいと思っております。

#### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

前年度からのオーダーリングシステムの導入による効率化と職員の増員により、平成 27 年度前半は入院患者様への薬剤管理指導や持参薬の聞き取り調査など病棟での業務に以前より多くの時間を割くことができ、薬剤管理指導件数も増加しました。現在は人員体制の都合上以前ほどの時間を確保できていませんが、退院時の薬剤管理指導を中心に、可能な限り病棟に説明に伺っています。今後は、患者様にしっかりと服薬意義などを理解してもらえようような指導を、入院から外来まで一貫して行い、患者様のアドヒアランスの向上を目標に日々の業務に取り組んでいきたいと思っております。

H27 年度 月別薬剤管理指導件数推移表

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	7	25	12	14	6	4	5	7	5	1	2	1	89

平成 27 年度入院薬剤指導件数 89 件（7.41 件/月）

#### <平成 27 年度 処方箋枚数>

一般外来院内処方箋枚数 866 枚（72.2 枚/月）

外来透析院内処方箋枚数 10,093 枚（841.1 枚/月）

入院内服処方箋枚数 2,857 枚（238.1 枚/月）

平成 28 年 3 月からは、外来透析患者様の定期薬の配薬を、曜日ごとの一斉配薬から 2~3 ブロック別の配薬とし、1 回の配薬人数を抑えることで、配薬時により詳細に説明ができるようにしました。

今後も各部署とも連携を取りながら、医薬品の安全かつ適切な使用を推進できるような取り組みを行っていきたく考えています。

#### 信頼され選ばれる病院を目指して ~患者様満足度向上の取り組み~

平成 27 年 6 月に、外来透析患者様の他院から処方された薬剤の使用状況の把握を行いました。その結果、薬効が重複したものを処方されている患者様が数名いらっしゃいました。今年度も同様の調査を実施し、薬の重複などの発見に努めるとともに、お薬手帳の活用を推進し、重複投与などを未然に防ぐことができるよう取り組みます。

また、可能な限り病棟に足を運び、入院患者様の薬剤管理指導や、よりよい処方提案を行いたいと考えています。

## 研究・自己啓発活動について

毎月当院で行われる薬の勉強会の他に、院外で開催されている勉強会に積極的に参加し、得られた情報を日々の業務へ活かせるよう自己研鑽に励んでいます。

### ・院内研修

開催日	メーカー	薬剤名	参加人数
H27.5.25	持田製薬	トラムセット配合錠	14名
H27.6.29	田辺三菱製薬	テネリア錠 20mg	14名
H27.7.27	塩野義製薬	フィニバックス点滴静注用	15名
H27.8.31	サノフィアベンティス	ランタス XR	14名
H27.9.28	バクスター	レギュニール腹膜透析液	13名
H27.11.30	塩野義製薬	クレストール錠	15名
H27.12.28	キッセイ薬品	ピートルチュアブル錠	13名
H28.1.25	久光製薬	モーラスパップ XR	12名
H28.2.22	中外製薬	ミルセラ注	11名
H28.2.29	ノボノルディスク	ライゾデグ配合注	13名
H28.3.28	大日本住友製薬	トルリシティ アテオス	13名

### ・院外研修

病院薬剤師会・薬剤師会・アステム・メーカー主催の勉強会

## 地域活動について

腎臓いきいき教室等で、地域の方に向けて薬の正しい飲み方や注意して欲しい事など、スライドを交えて話をさせてもらい、少しずつ地域での活動も増えてきました。平成 27 年度のお達者クラブでは、インフルエンザについてお話をさせていただきました。

#### **(4) 検査科 臨床検査チーム**

##### **部門紹介**

臨床検査チームでは、平成 26 年 11 月より新たな職員を加え 3 名の技師で検査を行なっています。業務内容は、生理検査では、頸部エコー、血管エコー、心エコー、腹部エコー、心電図、ABI 検査を主に行い、臨床検査では、生化学検査、末梢血液一般検査、尿検査などを院内にて行っています。免疫検査では、血液型検査、交差適合試験、不規則性抗体のスクリーニングを院内で行っています。検査数は年々増加傾向にあり、検査が重なって大変な時間帯もありますが、迅速に正しい検査結果が得られる様にマニュアルを遵守し、時間に追われながらも、患者様と接するときは、穏やかにゆとりを持って接するように心がけています。

##### **平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み**

今までは心エコー、頸部エコーができる技師が限られていましたが、検査数も増えてきたことから、今年度から複数人が検査できるように取り組んでいます。

##### **信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～**

平成 22 年 4 月より一般外来患者様の検査を院内にて実施しています。検査結果報告までの時間を 20～30 分とし、患者様の待ち時間の短縮に努めています。全てのエコーの実施時間も 20～30 分で検査が終了できるようにしています。まだまだ改善しなければいけないところもありますが、1 分でも患者様の待ち時間を短縮するため、正確な検査結果を迅速に報告できるよう努力していきたいと思えます。

##### **研究・自己啓発活動について**

検査技師会、超音波検査学会に入会し、検査技師会、超音波学会主催の学会や勉強会に進んで参加し、スキルアップに努めています。また検査結果に関しては、日本臨床検査技師会の外部精度管理調査にも参加し、精度を保っています。

##### **地域活動について**

毎年 5 月頃に行なわれる『健康まつり』において、検査科として頸部エコーの IMT（内中膜複合体の厚み）測定を行なっています。また『腎臓いきいき教室』では腎臓病の検査というテーマで患者様に判りやすく検査について説明しています。

## **(5) 検査科 放射線チーム**

### **部門紹介**

放射線チームは診療放射線技師 2 名体制で、上山病院、うえやま腎クリニックの患者様の一般撮影（胸部・腹部等）、CT 検査、PTA の手術等の撮影を行っています。上山病院には一般撮影装置・透視台・CT 装置・外科用 C アームが、うえやま腎クリニックには一般撮影装置・透視台が設置されています。

2 名と少数部署の為、検査の内容や検査日によっては患者様にお待ち頂く事もありますが、外来、臨床検査チーム、医事課、総務課などと連携をとり、患者様の待ち時間をできるだけ短縮できる体制と、患者様が安心して検査を受けていただける部署づくりを目指しています。

### **平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み**

平成 27 年度の撮影件数は、別紙の通りです。

腹部エコーに対応するようになり検査の幅が少し広がりました。今後も適切な報告書が提出できるよう今後も技術・知識の習得を図っていきます。

### **信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～**

マルチスライス CT や外科用 C アーム導入から 2 年経過しました。マルチスライス CT を導入したことで、検査に要する時間を大幅に短縮することができるようになり、装置を更新したことで造影 CT を 30 分程で終了できるようになりました。CT 単純撮影も以前と比べ検査時間が短縮されました。

C アームを導入し、PTA だけではなく、CAPD の術中対応や内頸カテーテル留置等、対応できる検査の幅が少しひろがりました。対応する検査が増加することで被曝も増加します。今後は患者様、スタッフの被曝低減も考えて対応していきたいと思います。

検査で待ち時間が発生する場合は、医事課、総務課などと連携をとり、患者様に声掛けをしながらなるべく待ち時間を短縮できるよう心がけています。

### **研究・自己啓発活動について**

平成 27 年度は日本診療放射線技師学術大会、九州放射線医療技術大会に参加しました。その他放射線技師会主催の研修会やエコーの研修会に可能な限り参加し、知識を身につけるため研鑽しています。

### **地域活動について**

5 月に開催された健康まつりに参加し、地域住民の皆さんとの交流を図っています。

## (6) 臨床工学科

### 部門紹介

臨床工学科は、上山病院に臨床工学技士 7 名・助手 1 名、うえやま腎クリニックに臨床工学技士 1 名・准看護師 1 名の計 10 名で構成されています。

透析監視装置は、上山病院に 92 台（HD 装置 54 台、HDF 装置 38 台）、うえやま腎クリニックに 40 台（HD 装置 28 台、HDF 装置 12）配置しています。

医療機器のメンテナンスを充実させ、安全で効率的な運用ができる環境作りを目指すと共に、患者様に安心して満足した透析を受けていただけるよう、他職種と連携し技術向上に努めています。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

平成 27 年度

- ・HDF 認定装置 20 台の導入することで、多くの患者様に HDF 治療の提供ができました。
- ・上山病院のエコーガイド穿刺技術のレベル向上に努めました。
- ・LDL 吸着装置を導入し、複数の患者様に LDL 吸着療法の提供ができました。
- ・装置及び水質管理を充実させることにより、安全な透析療法を維持・継続することができました。

※水質管理データ（生菌検査データ）別紙参照

平成 28 年度

- ・HDF 装置 12 台の導入を進めていきます。
- ・患者様個々に合った血液浄化療法が提供できるように取り組んでいきます。
- ・エコーガイド下穿刺の更なる技術向上（他職種への技術提供）を進めていきます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

安全で質の高い血液浄化療法を継続できるように、平成 28 年度の部署目標を立てました。

1. ME 機器の中央管理体制を目指します。
2. 患者個々に合った血液浄化法を考えます。
3. GE の業務役割分担を充実させ、経営基盤の強化と職員組織力の向上に取り組めます。

### 研究・自己啓発活動について

平成 27 年 6 月に開催された第 60 回日本透析医学会にて『エコーガイド下穿刺技術を用いた穿刺教育プログラムの検討』の研究発表を致しました。

平成 28 年 6 月 第 61 回日本透析医学会では『ダイアライザーへアミノ酸は吸着されているのか～Single Pool モデルにおける in Vitro 実験』を発表予定です。

### 地域活動について

平成 27 年鹿児島県市民健康まつりへ 3 名、業務支援として参加しました。

## (7) 栄養科

### 部門紹介

栄養科は、管理栄養士 2 名、給食業務委託先の栄養士 1 名および調理員 3 名で構成されています。業務内容は、患者様一人ひとりに合った食品構成の作成、献立作成とその展開、栄養管理、栄養指導・栄養相談、食材の発注・検品などです。治療効果が高まり、なおかつ入院生活の中の楽しみの一つだと思っていただけるような食事の提供を心掛けています。また、食事摂取量が少ない方や栄養状態のあまり良くない方には、食事の内容や形態を工夫し、少しでも食事摂取量や栄養状態が改善されるように努めています。栄養指導・栄養相談では、主に腎臓病や透析の食事療法について、患者様の立場になってわかりやすく伝えることを心掛けてお話をしています。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

平成 27 年度は、透析を導入される入院患者様のご家族を対象に、当院の食事を試食していただく「腎愛キッチン」をスタートさせました。患者様はもちろんのこと、ご家族も実際に透析食を食べてみることで透析の食事療法について理解を深める良い機会をご提供できていると思います。

平成 28 年度は、「腎愛キッチン」の対象者の幅を広げ、入院患者様全員のご家族を対象に実施し、さらに多くの方々の食事療法への取り組みや理解を深めるためのサポートをしていきます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

喫食・嗜好調査を年 4 回、入院患者様を対象に行っており、患者様の嗜好の傾向を把握するようにしています。その結果や食事へのご意見などを参考に献立に反映させられるように取り組んでいます。

患者様のなかには食事療法に対して不安を持っている方が少なくないので、栄養指導等ではしっかりと話を聞き適切なアドバイスができるように努めています。

### 研究・自己啓発活動について

栄養士会に入会し、食・栄養に関する研修会に積極的に参加しています。学んだことや得た情報を業務に活かせるよう自己研鑽に励んでいます。

### 地域活動について

年 6 回、外来患者様向けの腎臓いきいき教室で食事療法のお話をしています。教室では、味付けや食事量の参考にしていただきたいと思い、腎臓病食の試食も行っています。

5 月に行われた健康まつりでは、栄養相談のコーナーを設け、食事に関する相談や減塩みそ汁の試飲などを行いました。

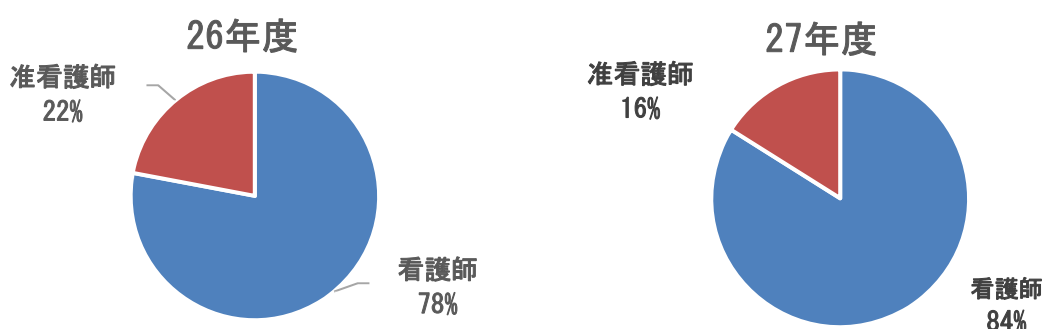
## (8) 看護部

### 部門紹介

#### 【概要】

腎愛会看護部は、病棟、透析室、外来・手術室・中央材料室の3単位とうえやま腎クリニックの1単位を統括して、4単位合同で連携を取り看護活動を展開しています。看護部及び看護教育の理念、基本方針を拠りどころとし、安心安全な看護提供の責務を全うすべく、自己育成できる人材の育成に取り組んでいます。今年度は、1名の准看護師が看護学校を卒業し、看護師国家資格を取得、2名のケアスタッフが介護福祉士の資格を取得しました。個々の目標を、看護職全員がサポートしあう風土を確立しつつあります。

#### <看護師と准看護師の割合>



#### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

当院独自のクリニカルラダーを作成し、取り組みはじめて3年が経過しました。今年度は、看護主任のレベルⅣ取得に、教育師長をはじめ各部署の師長が力を注ぎました。レベルⅣは、能力評価とナラティブ、看護過程の展開、所属する部署の課題や業務改善への取り組みです。皆がそれぞれに、自部署の課題解決に向け実践計画書の提出→実践→報告書の提出を行いました。その結果、4名の看護主任が、レベルⅣの認定を受けることが出来ました。まだまだ課題はありますが、看護部の質向上と目指す看護師像の育成基盤が整いつつあります。

#### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

患者満足度向上への取り組みとしては、看護の質向上と人材育成を考えています。今年度は、病棟に新卒新人が配属されたことから、教育師長を配置し、育成に取り組みました。病棟スタッフも、新人を支えつつ刺激を受け、看護知識や技術の確認とともに自己の振り返りができているようでした。透析室においては、教育師長が担当していた教育チームの育成を役割分担し、チーム全体で教育する体制と変えました。切磋琢磨しながら稼働しており、大きな成長へと繋がっています。また、質向上の1つとして「看護が見える看護記録」と題し、院内研修を開催しました。全スタッフが受講できるように各部署に講師が出向き、研修を開催する形をとりました。研修終了後も積極的に質問しているスタッフもおり、学びを深める機会となったようです。

### **研究・自己啓発活動について**

院外へ向けては、看護師が第 60 回日本透析医学会学術集会に「終末期看護を考える」、第 32 回九州 CAPD 検討会に「血液透析導入 2 ヶ月で腹膜透析へ移行した 1 症例からの学び」、第 48 回九州人工透析研究会に「透析中の運動療法の取り組み」と題して発表し、病棟ケアスタッフは昨年引き続き慢性期施設合同研修会にて「患者別移乗マニュアルの作成」～表皮剥離の減少を目指して～と題して発表しました。また、院内発表会では、看護部から 4 題発表することができ、日頃の自分たちの活動や学びをまとめ発表することで、自信と成長に繋がっています。院外研修には、昨年と同様、個人が関心のあるものや学びたいものに 1 つは参加することを目標に取り組みました。目標管理の個人目標にも研修参加を掲げ取り組む看護職は多く、自分のキャリアビジョンを描き、目標を持って自己啓発に取り組む意識が根付いてきました。

### **地域活動について**

学生の夏休みを利用して「ふれあい看護体験」を開催しました。小学生 3 名、高校生 2 名の応募があり、白衣に更衣後、車いすや救急処置の体験、患者移乗・移送、食事介助の見学等を行いました。患者様と実際に触れ合うことで、次世代を担う学生にとっては看護師への興味・関心を抱く機会となったようです。5 月に行われた健康祭りでも、メディカルチェックや手洗い、ハンドマッサージのブースで多くの看護職が活躍し、地域の方々の健康の保持・増進に努めていました。

## (9) 外来・手術室

### 部門紹介

当院外来は、一般内科・腎臓内科・人工透析内科・循環器内科・禁煙外来を掲げておりますが、新たに血管外科が加わりました。近年様々な疾患の方が、身近な医療機関として受診してくださるようになり、主訴も多岐にわたっています。循環器医師が常駐し、高血圧・糖尿病・高脂血症などの生活習慣病の指導も充実しています。診察や検査結果により、専門医への紹介など適切な医療を心がけています。

外来看護師は5名体制で、外来診療業務のほかに、検査案内（エコー・CT・ホルター心電図など）、手術（シャント関係・PTA・CAPD カテーテル挿入・下肢静脈瘤の手術など）中材管理を担当しています。外来チームとして医事課・地域連携室・検査科・薬剤科・栄養科などと連携し、患者様のQOL向上を目指し、その人らしさを大切にしながら、支援できるよう努めています。

### 平成27年度および平成28年度の取り組み

平成27年度の取り組みは、CKD看護の充実と計画的な導入、PD患者の在宅支援、フットケア外来の確立と諸手術への対応でした。CKD予防ネットワークからの紹介も多くなり、CKD段階別指導にも力を入れてきました。また、糖尿病療養指導士によるフットケアは年間28症例に携わり、細やかなケアで実績を上げています。平成28年度は、引き続きPD看護を充実させるために情報収集に努め、他職種と協働して在宅医療を支援していきます。さらに健康診断・二次健診・予防接種の患者様も、身近なかかりつけ医としてご利用して頂けるよう、丁寧な接遇と指導を行っていききたいと思います。

シャント関連 74件				PTA	CAPD 関連 8件			その他
内シャント設置術	グラフト挿入	血栓除去	その他		カテーテル挿入	カテーテル抜去	その他	
54	14	3	3	212	4	3	1	3

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

患者様の受診目的や病状、ニーズに沿った医療、看護を提供するには、まず気持ちよく、安心して受診していただくことと、「また来てみようかな」と思ってもらえることだと考えます。そのためにも私たちスタッフが、優しい笑顔・丁寧な言葉づかい・穏やかな態度で対応するよう心がけています。また、待ち時間が長ならないように、受付・医事課・検査部門などと連携し、情報を共有しながら「目配り・気配り・心配り」の実践に努めています。

### 研究・自己啓発活動について

「看護研究の基礎」を受講し、今年度は院内発表会で「透析病院におけるスタッフの腎代替療法における意識調査からの学び」と題して発表しました。また「訪問看護師育成研修」に1名参加し修了しました。さらに複数の研修に参加し糖尿病療養指導士を更新、その他CAPD全般・地域包括ケア関係・認知症看護・心電図セミナーなど様々な研修にできる限り参加し、幅広い外来業務に対応できるよう各自励んでいます。

### 地域活動について

腎臓いきいき教室は年に6回、公開講座として開催しています。案内は主に外来スタッフが行っていますが、各部署の専門スタッフが講師を務め、平成27年度は、66名が受講され好評でした。健康祭りにも参加し、当院をよりよく知っていただく機会にもなっています。

## (10)透析室

### 部門紹介

透析室は、同時透析ベッド数 74 床で、月・水・金は 4 クール（8：00・9：00・13：30・16：30 穿刺）、火・木・土は 1 クール（9：00 穿刺）で約 194 名、ハイブリット透析 5 名の患者様の透析を行なっています。

看護スタッフは看護師 19 名、准看護師 6 名、ケアスタッフ 9 名、計 34 名と医師・臨床工学士・ソーシャルワーカー・医療事務・検査技師と連携をしながら業務を行っています。

透析患者様は、65 歳以上の患者様が全体の約 58% を占め、認知症や ADL の低下により、介護を要する患者様が増加しています。そうした患者様の生活状況を把握するために、連絡帳を作り、家族や施設スタッフとで情報を共有しています。また、護送・担送も多いため、転倒・転落等の事故を未然に防げるよう看護スタッフで細心の注意を払い、安全の確保に取り組んでいます。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

#### 1. フットケアへの取り組み

平成 23 年から取り組んでいるフットケアを充実するために、平成 26 年は、臨床工学技士の協力により、点数化できる簡易フットチェックシート作成しました。平成 28 年度は、更に病院全体で統一したフットチェックシートを作成し、他部署との連携・情報共有を図り、患者様の足病変の早期発見、予防に努めています。

#### 2. 月水金患者様受入れ枠拡大の取り組み

透析患者増員に伴い、平成 27 年 11 月より 8：00（4 名）・13：30（4 名）の穿刺を開始しました。患者様の生活スタイルに合った時間帯でもあり、また、穿刺の待ち時間が短いことなどが患者様から好評をいただいています。今後も、患者様に安心して安全な透析治療と、より良い治療環境を提供できるよう、積極的な業務改善にスタッフ一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

今年も部署目標に掲げている「気配り・目配り・心配り」相手を思いやる気持ちを motto に、患者体験・丁寧な言葉使いを継続していき、患者様とより一層の信頼関係を築いていけるよう努力していきます。また、「患者満足度調査」のアンケート結果や指摘を謙虚に受け止め、患者様の目線で考える看護ケアを提供していきます。

5S 活動の、整理・整頓・清潔・清掃・躰を基本に環境美化にも努め、患者様が心地良く安心・安全な透析治療が受けられるようスタッフ一同で取り組んでいきます。

### 研究・自己啓発活動について

平成 27 年 12 月に開催された第 48 回九州人工透析研究会で「透析中の運動療法の取り組み」を発表しました。平成 28 年 6 月は、第 61 回日本透析医学会で「フットケアへの取り組み～フットチェックシートを見直して～」をテーマに発表する予定です。

資格取得については、平成 28 年 4 月に 1 名が介護福祉士を取得しました。また、通信制にて看護師国家試験を目指す准看護師も 2 名おり、それぞれが目標に向かって努力しています。

### 地域活動について

夏休みを利用して行う「ふれあい看護体験」、腎愛会主催の「健康まつり」に腎愛会の一員として積極的に参加し地域活動に取り組んでいます。

## (11) 病棟

### 部門紹介

病棟は、腎疾患を中心とした 40 床の医療療養病棟です。主に、血液透析、腹膜透析の患者様が入院されており、導入期から維持期の指導や、透析治療、手術前後の看護・介護を実践しています。また、急性期病院から、自宅・施設へ退院できるまでの調整を担っており、患者様・ご家族が安心して、今後の生活が送れるよう支援しています。

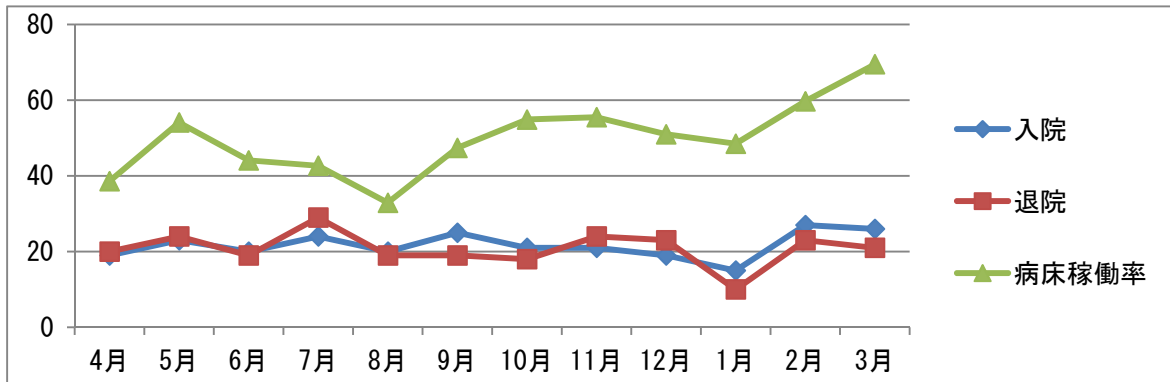
平成 27 年 4 月より理学療法士が常駐し、入院患者様のリハビリテーションにも力を入れ、生活を支援するためのチーム力が向上しています。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

平成 27 年度は、業務改善として、情報収集の充実・申し送り時間の短縮化を図り、ケースカンファレンスの見直しに取り組むことができました。患者様に入院生活をどのように送っていただくか、安心して退院していただくために、どう対応していくかなど、様々な意見をスタッフ間で出し合い、看護ケアに活かせるよう励んでいます。導入期指導では、経験が少ないスタッフでも安心して関われるよう、パンフレットや評価表を用いて、わかりやすく統一された指導が定着してきました。また、維持透析患者の教育目的入院の受け入れを開始し、食事・薬剤指導や体重コントロールだけでなく、透析治療に対する患者様の思いや悩みに傾聴し、今後の治療に少しでも役立てられるようアドバイスを行っています。

その他、花見やクリスマス会などレクリエーションを年に 4 回開催し、患者様にひと時の安らぎの時間をご提供して、入院生活を少しでも楽しんでいただこうと、スタッフ一丸となり取り組んでいます。新しいスタッフも加わり、安心して入院できる環境、安心して働ける環境を、今後も構築していきたいと考えています。

【平成 27 年度の導入実績】 腹膜透析導入 7 名 血液透析導入 22 名



### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

透析導入期指導の充実を目指し、腹膜透析患者様の自宅訪問や、早い段階での退院に向けた環境調整、また血液透析患者様に必要な自己管理指導など、他部署と連携を強化し、より安心して退院後の生活が送れるよう検討していきたいと考えています。

スタッフ一人ひとりが、患者様の意思を尊重し、思いやりのあるケアを提供していけるよう、看護・介護の質向上、接遇の向上に励んでいきたいと思ひます。

### 研究・自己啓発活動について

九州 CAPD ナース検討会

「血液透析導入 2 ヶ月で腹膜透析へ移行した 1 症例からの学び」発表。

慢性期施設合同研修会

「患者別移乗マニュアルの作成～表皮剥離の減少を目指して～」発表。

**【平成 27 年度 資格および免許取得実績】**

介護福祉士取得 1 名。正看護師免許取得 1 名。

**地域活動について**

ふれあい看護体験や健康祭りで無料健康相談や腎愛会の取り組みを知っていただく機会を持ち、地域の方との貴重な時間を楽しく交流させていただいています。今後も引き続き地域に貢献できるよう取り組みたいと考えています。

## (12) 事務部

### 部門紹介

事務部は、医事課、総務課、施設課で構成されており、上山病院並びにうえやま腎クリニックの受付、医療事務、庶務、施設管理、患者送迎、清掃等の業務を担当しています。それぞれの課が更に出来ることがないか、果たすべき役割を考えながら日々業務に取り組んでいます。

平成 28 年度は組織再編が行われる予定となっており、法人本部に事務部門が集約され、事務部・医事課・総務課・施設課に加え経営管理室も同じ組織内で業務を行うこととなります。これまで以上に連携を高め、事務部門の業務水準の向上に努めてまいります。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

平成 27 年 4 月には、幹部会議での議論を元に委員会の構成を見直し、統合・再編を行いました。また、前年度に幹部会議にて検討・構築した新たな人事制度に取り組みました。併せて、成長評価結果を処遇反映する方法も検討し、28 年度に反映する予定です。

平成 28 年 2 月より建設が始まった高齢者福祉複合施設の事業計画の作成、各種申請手続きを行い、建設計画を推し進めました。

平成 28 年度には、中期経営計画にも掲げております「在宅復帰・在宅療養支援及びその連携を強化するための取り組み」の中心的役割を果たす高齢者福祉複合施設がオープンする予定です。サービス付き高齢者向け住宅・ケアプランセンター・訪問看護ステーション・デイサービスの開設を滞りなく進め、運営を軌道にのせるべく、職員が一丸となって取り組んでまいります。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

ご意見箱をはじめ患者様よりいただいた要望・意見等について、今後も真摯に対応してまいります。

それに加え、患者様満足度の向上は働いている職員の満足度が高くなければ、実現できないことから、職員がより働きやすい職場となるよう、福利厚生の更なる充実のため検討、実行していきます。

### 研究・自己啓発活動について

それぞれの専門知識や技術の習得ならびに資格取得を推進します。また、これまで十分でなかったデータ分析、より細かな経営分析を実行し根拠のある提案、提言が出来るよう、職員一人ひとりが 1 年間を通して目に見えて成長できるような環境作りに努めます。

新たな試みとして、院内研究だけでなく院外での発表にも目を向けていきます。

### 地域活動について

腎愛会は今後も地域の皆様の「頼れるかかりつけ医」であり続けるために、毎年開催している「健康まつり」や「地域公開講座」「出前講座」を継続していきます。

## (13) 医事課

### 部門紹介

私たち医事課は、診療に関する事務的業務の役割を担っています。受付、一般外来・透析外来・入院の保険請求事務、各種書類の手続き、未収金管理、診療録管理に加えて、透析室・病棟でのクラーク業務を兼務しています。また、診療に関する集計業務・統計資料作成や施設基準等に係る手続き・実施報告も担当しています。他部署との連携を図りながら、医療サービスの提供に努めています。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

オーダーリングシステム導入から 2 年目となり、医師代行入力の充実や各フロアでの業務内容の見直しも随時行いました。診療報酬請求においては、ミスや漏れがないようにチェック表に工夫を加え、精度の高いレセプト作成に努めています。また、不明瞭な査定については、医師の協力を得て再審査請求を行っています。4 月に九州厚生局による施設基準に係る適時調査、1 月に生活保護法による指定医療機関の個別指導の立ち入り調査が実施され、おおきな指摘事項もなく、診療報酬請求に関しては、おおむね適正な運用との評価を得ています。毎年 7 月には、専門学校からの病院受付実習の受け入れを行っており、医療事務職の仕事内容の理解や仕事への生き甲斐が見つけれられるようお手伝いしています。平成 27 年度の施設基準新規申請は、運動器リハビリテーション料Ⅲ、外来リハビリテーション診療料がありました。来年度は、訪問看護ステーション・デイサービス等の開設も計画されていることから、介護保険制度の知識を高めていきます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

笑顔は、言葉を越えた最高のコミュニケーションツールとなることから、「明るい笑顔」をモットーに、話しかけやすい・相談しやすい受付対応に心掛けています。また、治療費や各種書類申請、福祉制度に関することなど、わかりやすく丁寧な説明を行っています。

また、日本電信電話ユーザ協会主催の「電話対応コンクール」に毎年参加し、電話対応の技術向上に努めています。

### 研究・自己啓発活動について

- ・医療事務能力検定試験に 1 名合格しました。(有資格者 6 名)
- ・「院内における施設基準の届出」と題して、院内研修を実施しています。
- ・保険請求、接遇等に関する各種院外研修へ参加しています。
- ・電話対応コンクール(テープ審査会)に参加しています。
- ・医事課内に茶道部員が 6 名おり、年 2 回職員への抹茶点て出しを行い、癒しの一時を提供しています。

### 地域活動について

- ・腎臓いきいき教室のメンバーに入っており、腎臓保存期の患者様のサポートを行っています。
- ・法人主催の健康まつりに参加し、多くの方々に喜んで頂けるよう、地域医療活動に取り組んでいます。

## (14) 総務課

### 部門紹介

総務課は受付業務1名・庶務業務3名・薬剤科補助業務1名の合計5名で構成されています。受付業務は電話対応・外来患者様受付・入院患者様面会受付、また関係業者や一般のお客様の受付等、庶務業務は職員の入退職の準備・慶弔関係の庶務・朝礼や院内の行事などに関する業務、職員の出張費・研修費の手配等、薬剤科補助業務は薬剤の納品・管理等を行っています。患者様が安心して受診できるような環境づくりと、職員が安心して楽しく働ける環境を整えるために日々業務に臨んでいます。

### 平成27年度および平成28年度の取り組み

平成27年度は、薬剤科事務職員が総務課に異動になり、人員が1名増となりました。また受付業務を主に医事課で担当することになったため、患者様の受付業務を1人とし、それぞれの業務を専任するようにしました。また、うえやま腎クリニックの受付業務にも対応しました。

職員の楽しく働ける環境づくりの一環として職員講座を企画し、6月に「手作りアロマ教室」、12月に「生花でクリスマスリースを作ろう」というテーマで開催しました。また、平成27年4月に改装した霧島山荘の職員の貸し出し管理、施設課と共同で施設の清掃管理も行いました。

平成28年度は受付業務を医事課に移行しましたが、今までと同様、医事課と連携を図り、総合的な受付対応を的確にできるよう、接遇マナーも強化していきます。また、うえやま腎クリニックの総務業務も病院と同様に行い、他部署の負担を軽減し、法人全体の業務を統一し、円滑に進むよう改善していきます。その他の業務についても改善が進むよう部署間の連携体制を強化します。また、昨年引き続き職員に向けての職員講座を企画し、職員が働きやすい環境を作っていきます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

接遇面では挨拶・表情・身だしなみ・態度・言葉づかいに気をつけ、患者様はもちろん職員からも好感のもってもらえる接遇を実践し、模範となるように心がけています。また、施設全体の管理をし、患者様はじめ来訪者の皆様が快適にお過ごしいただける様に掃除や点検を確実に行っていきます。

### 研究・自己啓発活動について

それぞれの仕事の目標をふまえた外部研修に参加し、個々のレベルアップを図っていきます。また、介護・在宅・福祉制度に関する知識を深め、今後の法人の方針に沿って対応できるようにしていきます。

### 地域活動について

健康まつり・地域公開講座などのイベントに積極的に参加しています。

## (15)施設課

### 部門紹介

施設課は運転チーム8名、清掃チーム5名、保安業務1名及び運転業務委託5名の19名で構成しています。

送迎用の車両はワゴンタイプ5台、軽自動車1台で運営しています。

運転チームは、透析患者様の送迎を主な任務とし、鹿児島市内、吹上・伊集院方面の他、遠くは東市来・穎娃・知覧・川辺方面の送迎を行っています。また上山病院・うえやま腎クリニックの建物・設備機器全般の維持管理として、空調機のフィルター・換気扇の清掃、消防設備機器・車いすの点検や、防犯巡回等の業務・駐車場管理を行っています。

清掃チームは、上山病院・うえやま腎クリニックの院内各フロアの床清掃・ゴミ回収・じゅうたん清掃・浴槽清掃の他、建物周りなど細部にわたり清掃業務を行っています。

### 平成27年度および平成28年度の取り組み

1. 無事故・無違反を推進するため安全運転管理者を選任しています。
2. 運転技能研修では、他の職員が同乗し、乗り心地や運転操作などについて意見を出し合い、運転技能向上の取り組みを行いました。
3. 月に1度、乗降介助研修や勉強会を開催し、送迎運転の安全性向上に努めています。
4. 透析室と連携し、在院時間短縮のため送迎順番の見直しを行っています。
5. これらの取り組みから、患者様に安全で安心なやさしい送迎業務を今後も実践します。
6. 施設管理業務にも力をいれ、建物及び設備の状態維持及び改善ができる様、日々の管理・点検を行っています。

清掃チームは、清掃業務の標準化を図る目標をたて、清掃業務の基本や清掃用具の取り扱いについて研修を行い、清掃技術のレベルアップに努めました。平成28年度も清掃研修・ラウンドを通じ清潔で綺麗な病院清掃、安全な清掃作業を行います。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

運転チームでは、患者送迎の目標である「交通ルールを厳守し、地域の模範となる人に優しい送迎サービス」を目指し、安全運転管理者を中心に「無事故・無違反」を実践していきます。

病院内外の清掃では、施設課スタッフ全員で、清潔で快適な施設環境を整え、患者様はじめ来院される方々が、毎日気持ちよくご利用頂けるように取り組んでいきます。

### 研究・自己啓発活動について

1. 院内研修に積極的に参加し、腎愛会の医療・接遇について知識を広げていきます。
2. 安全で安心な送迎業務を行うため外部研修（福祉車両運転者講習）を毎年2名受講し、車両事故・転倒事故の防止に努めます。
3. 清掃技能研修（DVD研修など）を定期的に行い、清掃技術を高めます。

### 地域活動について

患者様との懇親会に積極的に参加し、親睦を深めています。また美化活動として、病院周りだけではなく、職員駐車場付近まで範囲を広げ美化活動しています。

## (16) うえやま腎クリニック

### 部門紹介

うえやま腎クリニックは、透析と外来診療からなり、透析室はベッド数 40 床です。長期透析合併症と重症化の予防に力を入れており、必要時は急性期病院での専門的な治療になぎ、患者様の生活の質が低下しないよう細心の注意を払っています。

外来は、腎臓病の治療から生活習慣病の治療まで幅広く対応し、地域のかかりつけ医として親しまれています。スタッフは子育て中の職員も多く、個々に応じた勤務時間内で協力しながら、日々の業務にあたっています。残業時間が少ないことが魅力の一つです。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

透析治療が長くなると、年齢も高齢化し様々な合併症を引き起こします。少しでも長く元気でその人らしく生活していくために、合併症の予防や早期治療が重要です。必要時は高度急性期病院と連携し、患者様が安心・安全な透析治療と、充実した生活を送れるよう、医師や看護師、臨床工学技士、ケアスタッフ、社会福祉士などのスタッフが協力して医療や看護に取り組んでいます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

新入職員への教育では、心理面のサポートと知識や技術習得のため、教育計画に沿ってプリセプターを中心に進めています。またエコー下穿刺技術習得のため、3 名が上山病院で指導を受け、技術を磨くことができました。今後もさらに穿刺技術が向上し患者様が安心して透析治療を受けられるよう、取り組んでいきたいと考えています。また 5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）活動では、年末に大規模な活動を行い、必要なものが一目でわかるよう工夫し、業務の効率化につながりました。今後はさらに業務改善を行い、働きやすく、患者様にとっても安心できるクリニックになるようスタッフ全員が知恵を出し合い、工夫していきたいと考えています。

### 研究・自己啓発活動について

「災害時の緊急離脱法の検討～切断法から抜針法に変更して～」というテーマに基づき院内発表会で発表しました。また、スタッフそれぞれが院内および院外研修へ積極的に参加し、透析看護やフットケアについて多くの学びを得ることができました。

### 地域活動について

夏休みを利用して行う「ふれあい看護体験」への募集を積極的に行っています。また腎愛会主催の健康祭りでは、地域の人々との交流を大切にし、健康へのサポートに少しでも貢献できるよう取り組んでいます。

## (17) 法人本部 経営管理室

### 部門紹介

経営管理室は、平成 24 年度の事務部門組織再編により新設され、平成 27 年度で 4 年目を迎えました。現在は常勤 5 名、事務補助パート職員 1 名体制で、日々の業務にあたっています。主な業務として、①人事・給与業務、②経理・財務業務、③企画業務(広報や、院内研修・各種研修や会議の取りまとめ、情報システム機器や院内設備のハード・ソフト面の導入支援・運用管理、ネットワークセキュリティ対策)の 3 つがあり、それ以外に法人全体に関わる行事・イベントの企画・運営も担っております。

平成 28 年度は「高齢者福祉複合施設 光陽」の新設を予定しており、今まで以上に、一人ひとりに幅広い対応力が求められている中、開設準備室と協働して準備にあたっています。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

① 人事・給与：平成 27 年度は、新たな人事制度の設計・構築を担当し、様々な研修で得られたノウハウとモデルプランを参考に、幹部会議での協議・修正を経て当法人独自の職員シートが完成しました。また、評価を処遇反映するため、評価の偏りや不透明感という考課制度の悪いイメージを一掃するために、他部署所属長や管理職によるグループ評価を実施し、全職員を多面的に評価する方法を実践しました。評価を通して、新たな視点や価値観の共有ができるなどの副産物も得られ、有意義な取り組みとなりました。

評価の処遇反映については、自身の客観的な貢献度を実感することにつながり、職員のモチベーション向上の一助になるのではと期待しています。平成 28 年度も福利厚生充実策と合わせて、職員にとってより働きやすく、よりやりがいのある労働環境実現を目標に取り組みます。

② 経理・財務：平成 27 年度は、月次報告資料の精緻化に力を入れました。予実比較だけでなく、直近 3 ヶ年の同月比較・経営数値の充実を図り、経営判断をする上で必要不可欠な指標の作成・提示に取り組みました。平成 28 年度は新たに「高齢者福祉複合施設 光陽」を開設します。安定した経営体質を構築できるよう、財務面でのバックアップをすすめていきます。

③ 企画：平成 27 年度はパンフレットのリニューアルを行いました。また、マイナンバー制度への対応、院内ネットワークのセキュリティ強化対策として UTM と資産管理ソフトを導入しました。平成 28 年度は、院内ネットワークの環境整備や「高齢者福祉複合施設 光陽」のネットワーク構築やホームページ作成等行っていきます。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

職員満足度の向上が患者様満足度の向上へと繋がると考え、福利厚生充実への取り組みと共に、前年度に引き続き、平成 27 年度にも全職員を対象にした職員満足度調査を実施しました。調査結果を基に更なる職員満足度向上を目指し、企画立案・実行に取り組みます。

### 研究・自己啓発活動について

第 14 回医療法人腎愛会院内発表会で「腎愛会の情報システム改善への取り組み」について発表をしました。電話対応コンクール(テープ審査会)、また、法人の適正運営に必要な、人事労務に関する関連法規、人事制度、財務・経営分析、ネットワーク関連の研修に参加し、各自が専門分野において法人に貢献できるよう、部署一丸となり自己研鑽に取り組んでいきます。

### 地域活動について

健康まつりへ参加し、当日の運営補助を担いました。

## (18) 法人本部 開設準備室

### 部門紹介

開設準備室は、平成 27 年 9 月に新しく設置された部署です。平成 28 年 12 月末に完成予定の高齢者福祉複合施設「光陽」の開設準備に日々取り組んでおります。建物は 4 階建てで、施設内にはサービス付き高齢者向け住宅・デイサービス・訪問看護ステーション・ケアプランセンターの併設を進めてまいります。住宅の居室は全部で 30 戸、お一人部屋を中心にご夫婦で入居できる部屋 4 室など、4 タイプの異なる広さのお部屋をご準備しております。

これから益々加速していく高齢化社会へ向けて、施設内での生活時間を楽しみながら、安全で安心して暮らすことのできる快適な施設をご提供することで、微力ながら皆様のお役に立ち、地域貢献ができるよう、努力してまいります。

### 平成 27 年度および平成 28 年度の取り組み

1. サービス付き高齢者向け住宅  
入居される方の 24 時間見守り体制を確立して、十分な生活支援を行います。  
また、車椅子などの介助が必要な方に安心していただけるサポートを行い、安全で快適な居住空間の提供に努めていきます。
2. デイサービス  
サービス内容を吟味し、お食事、入浴サービスから機能維持のための運動や頭の体操など、楽しく過ごしていただける時間と癒しの空間を提供していきます。
3. 訪問看護ステーション  
訪問看護を希望される方とのコミュニケーションを積極的に行い、より高い安心感を地域の皆様にご提供できるよう準備を進めていきます。
4. ケアプランセンター  
在宅における介護サービス利用のサポートをはじめとした、安心した暮らしの一助となる拠点を目指します。

### 信頼され選ばれる病院を目指して ～患者様満足度向上の取り組み～

平成 28 年度は、病院理念に呼応した施設理念を作成し、基本方針の徹底とホスピタリティーの向上に努めます。また、上山病院・うえやま腎クリニックとの連携をはじめ、他医療機関、他福祉施設との協力体制も模索し、地域に貢献できる介護部門の機能を充実させ、「光あふれる、陽だまりの空間で、自分らしく生きる」のコンセプトを体現し、スタッフ一丸となり、ご利用者様とのコミュニケーション強化、笑顔あふれる接遇力を高めて、生活空間の満足度アップに努めます。

### 研究・自己啓発活動について

安全・安心・快適な施設運営の一つとして、防火管理体制の強化が挙げられます。防火管理者としての責務を熟知し、新しい施設の自衛消防隊を組織して、居住される高齢者や、車椅子などを使用される方へ、安全と安心を提供するために訓練指導を行い、職員一丸となった素早い行動力を、習得させていきます。

### 地域活動について

地域への認知度を高めるために、地域包括支援センター、法人内の地域連携室と密に連携を取り、大学病院や市内各地域の病院や関係する外部のケアマネージャーなどに、幅広く告知活動を行ってまいります

## 6 研究実績

### (1) 発表

年月日	演題	発表者	学会名	会場名
平成27年6月 27～28日	終末期看護を考える	木野	日本透析医学会	パシフィコ横浜
平成27年6月 27～28日	エコーガイド穿刺技術を用いた 穿刺教育への取り組み	鮫島	日本透析医学会	パシフィコ横浜
平成27年7月18日	血液透析導入2ヶ月で腹膜透析へ 移行した一症例からの学び	小湊	第32回九州CAPD検討会	福岡県中小企業 振興センター
平成27年7月19日	高齢者透析について ～A氏との関わりを通して見えてきた課題～	濱崎	第8回透析看護研究会	鹿児島県 青少年会館
平成27年12月6日	透析中の運動療法の取り組み	市之瀬	第48回九州人工透析研究会	長崎 ブリックホール
平成27年12月6日	エコーガイド穿刺における フィンガープローブの使用経験	柿ノ谷	第48回九州人工透析研究会	長崎新聞 文化ホール

### (2) 座長

年月日	演題名	氏名	学会名	会場名
平成27年5月30日	性ホルモンと循環器疾患	嘉川亜希子	第6回性差医療情報 ネットワーク (NAHW) 九州支部セミナー	熊本市医師会館
平成27年7月14日	わが国の統計調査から見た腎性貧血治療の今後 ～ガイドライン改訂を見据えて～	上山達典	鹿児島県透析 医療従事者セミナー	城山観光ホテル
平成27年7月15日	心腎連関を断ち切るための新たな 降圧治療戦略	上山達典	実地医家の為の 高血圧セミナー	ホテルセントコスモ
平成27年7月30日	エリスロポエチン産生細胞と 慢性腎不全について	上山達典	鹿児島県透析医会 学術講演会	城山観光ホテル
平成27年10月1日	腎障害患者に対するC型肝炎治療	上山達典	慢性肝疾患学術講演会	城山観光ホテル
平成27年10月15日	①鹿児島大学ADPKD外来の現状 ②透析患者におけるカルニチン補充療法を考える	上山達典	鹿児島県透析医会 学術講演会	城山観光ホテル
平成27年11月1日	ランチョンセミナー	嘉川亜希子	第12回性差医療情報 ネットワーク (NAHW) 研究会総会	東京四ッ谷 主婦会館
平成28年1月21日	腎性貧血治療における最新知見と 改訂版ガイドライン(案)	上山達典	鹿児島市内科医会 学術講演会	城山観光ホテル
平成28年1月 30～31日	ポスターセッション	嘉川亜希子	第9回日本性差医学・ 医療学会学術集会	ニューオータニ イン札幌
平成28年3月20日	ポスターセッション (日本語) 87 (MD)	嘉川亜希子	第80回日本循環器学会 学術集会	仙台国際センター

### (3) 院内講演会

年月日	演題名	講師
平成27年7月9日	よりよい透析生活を送るために大事なこと	上山達典

#### (4) 講師

年月日	演題名	氏名	主催	会場名
平成27年4月2日	高血圧患者における尿酸と腎機能が左室肥大に及ぼす影響の性差	嘉川亜希子	高尿酸血症フォーラム2015	城山観光ホテル
平成27年6月19日	高血圧患者の左室肥大に及ぼす尿酸の意義の性差	嘉川亜希子	高尿酸血症カレントセミナー	城山観光ホテル
平成27年9月29日	循環器領域における性差医療	嘉川亜希子	福島県立医科大学産婦人科学講座	福島県立医科大学附属病院
平成27年10月20日	クリニック施設見学及び勉強会	寺口記代	テバ製薬	うえやま腎クリニック
平成28年2月7日	性差医療とは	嘉川亜希子	曾於市役所	曾於市いきいき健康センター

#### (5) 院内研究発表会（平成27年9月3日）

	演題名	発表者
1	腎愛会の情報システム改善への取り組み	経営管理室 ○山岡 藤間
2	透析病院における腎代替療法に対する意識調査からの学び	外来・手術室 ○内田 前田 池端 赤池 今村 嘉川
3	穿刺方向や穿刺部位の工夫は、バスキュラーアクセスの長期維持に有効か ～PTA間隔を延ばすための取り組み～	2階透析室 ○西村 大迫 小柳
4	HD導入期の患者指導に対するスタッフの意識変化 ～指導表と評価基準を導入して～	病棟 ○村川 有馬 上村 中園 松山
5	当院の要介護認定者の推移	地域連携室 ○脇田 有園
6	患者と考える災害時の緊急離脱法の検討 ～切断法から抜針法に変更して～	うえやま腎クリニック ○川迫 宮崎 清水 遠藤 満枝
7	入院患者様のご家族への食事の提供について ～腎愛キッチン始動～	給食委員会 ○溝下 中西

## 7 院内研修開催実績

### (1) 法定研修

日時	テーマ	講師	主催	参加人数
10月6日	台風・大雨による風水害対策	臨床工学科 有馬	医療安全委員会	112名
10月15日	インフルエンザについて	うえやま腎クリニック 宮崎	感染対策委員会	
	医薬品の安全使用について	薬剤科 上山	薬剤科	
2月3日	台風・大雨による風水害対策Ⅱ	臨床工学科 有馬	医療安全委員会	129名
3月1日	感染性胃腸炎の症状・対策について	2階透析室 濱崎	感染対策委員会	
	ハイリスク薬に関するガイドライン	薬剤科 上山	薬剤科	

### (2) 教育委員会主催

日時	テーマ	講師	参加人数
4月30日	体験からの学び	内菌 竹之内 竹井 久留須 山下 鎌田	85名
7月9日	よりよい透析生活を送るために大事なこと	上山病院 理事長 上山達典	73名
12月3日	①地域連携室の業務紹介 ②当院における施設基準の届け出について	地域連携室 有園 医事課 波江野	64名

### (3) 看護部研修

日時	内容	講師	参加人数
1月13日	看護が見える看護記録	看護部教育師長 三原	27名
1月21日	看護が見える看護記録	看護部教育師長 三原	9名
1月26日	看護が見える看護記録	看護部教育師長 三原	9名

### (4) ケアスタッフ研修

日時	内容	講師	参加人数
5月19日	認知症患者との関わり方	パールランド病院 吉松昌代先生	23名
7月21日	アロマランプの取り扱いについて	ユーエスケイ企画 営業係長 谷	15名

(5) 一般職研修

日時	テーマ	講師	参加人数
4月22日	認知症の予防について	会長 新村健	6名
5月27日	転倒と杖	会長 新村健	11名
6月24日	ロコモティブシンドロームについて	会長 新村健	10名
7月22日	貧血について	会長 新村健	7名
8月26日	ストレス解消法について	会長 新村健	4名
10月28日	老年学入門①	会長 新村健	10名
11月25日	老年学入門②	会長 新村健	4名
1月21日	老年学入門③	会長 新村健	12名
3月17日	フレイルについて	会長 新村健	6名

(6) 新入職者研修

日時	テーマ	講師	参加人数
4月2日、3日	新入職者研修	各部署・委員会	7名
4月4日、5日	霧島宿泊新人研修	各部署・委員会	8名
7月14日、15日	中途採用者研修	各部署・委員会	3名
8月11日、12日	中途採用者研修	各部署・委員会	2名
10月6日、7日	中途採用者研修	各部署・委員会	3名
3月8日、9日	中途採用者研修	各部署・委員会	4名

## (7) 薬剤科勉強会

日 時	内 容	講 師	参加人数
5月25日	トラムセット配合錠勉強会	持田製薬(株)	14名
6月29日	テネリア錠20mg勉強会	田辺三菱製薬(株)	14名
7月27日	フィニバックス点滴静注用勉強会	塩野義製薬(株)	15名
8月31日	ランタスXR勉強会	サノフィ株式会社	14名
9月28日	レギュニール腹膜透析液勉強会	バクスター株式会社	13名
11月30日	クレストール錠勉強会	塩野義製薬(株)	15名
12月28日	ピートルチュアブル錠勉強会	キッセイ薬品工業(株)	13名
1月25日	モーラスハップXR勉強会	久光製薬(株)	12名
2月22日	ミルセラ注勉強会	中外製薬(株)	11名
2月29日	ライゾデグ配合注勉強会	ノボノルディスクファーマ(株)	13名
3月28日	トルシティ アテオス	大日本住友製薬(株)	13名

## (8) その他の研修

日 時	テーマ	講 師	主 催	参加人数
3月17日	パワーハラスメントについて	管理部長 梅森 事務長 西	法人本部	31名

## (9) 職員講座

日 時	内 容	講 師
6月18日	手作りアロマ教室	西村 佑里子 先生
12月17日	生花でクリスマスリースを作ろう	迫 章子 先生

## (10) 説明会

日 時	テーマ	講 師
5月27・28日	霧島山荘説明会	経営管理室 藤間
10月13・22日	日本慢性期医療学会に参加して	病棟 堀之内 透析室 郷原
11月13日	BV計の使い方	臨床工学科 仕田
3月14・15日	ビジネスコミュニケーション講座を受けて	経営管理室 西村

## 8 1年間の主な出来事

4月1日	開院記念式
4月2～3日	新入職員研修
4月4～5日	霧島山荘 新人研修
5月17日	日本透析医会理事会
5月24日	第9回健康まつり
5月24日	NPO法人鹿児島腎臓病協会通常総会
6月26～28日	日本透析医学会
7月9日	理事長講話
7月18日	九州CAPD検討会
7月30日	鹿児島県透析医会総会・学術講演会
8月22日	維持透析患者の補完・代替医療研究会 九州支部会
8月23日	日本統合医療学会九州支部会
9月1日	日本透析医会災害時情報伝達訓練
9月3日	第13回院内研究発表会
9月5日	ターザン会
10月15日	鹿児島県透析医会学術講演会
10月20日	第3回理事長杯ボウリング大会
12月5日	腎愛会・ユーエスケイ企画忘年会
12月6日	第48回 九州人工透析研究会
1月4日	年始式
2月18日	高齢者福祉複合施設「光陽」 地鎮祭
2月25日	葉月会(職員互助会)総会
2月28日	CKD啓発イベント「世界腎臓デーinかごしま」
3月27日	第50回USリーナル会(ゴルフ)
3月31日	期末実地棚卸



開院記念式



年始式

## 9 医療機器

CT



超音波断層装置



透析監視装置



### 【その他】

電気メス

手術台

患者監視装置ベッドサイドモニター  
セントラルモニター

パルスオキシメータ

聴力計オーディオメータ

マイクロスコープライザー

長時間用心電用データレコーダ

顕微鏡

心電計

血圧脈波検査装置

超音波診断装置

(腹部・心臓・頸部・血管)

吸引機

自動血球計数測定装置

生化学自動分析装置

エンドトキシン測定装置

純水装置 (オルガニクユライト)

電解質分析装置

逆浸透水处理装置

多人数用透析液供給装置

多人数用透析監視装置

個人用透析装置

個人用逆浸透水处理装置

自動溶解装置

透析液クリーン化ユニット

浸透圧分析装置

血圧監視装置

患者監視装置

滅菌バックシラー

高圧蒸気滅菌器サボークレーブ

ガス滅菌器ケスキューブ

超音波式ネプライザー

除細動器

AED

錠剤自動供給装置

X線一般撮影装置

X線CT装置

CR装置

電子ポケット線量計

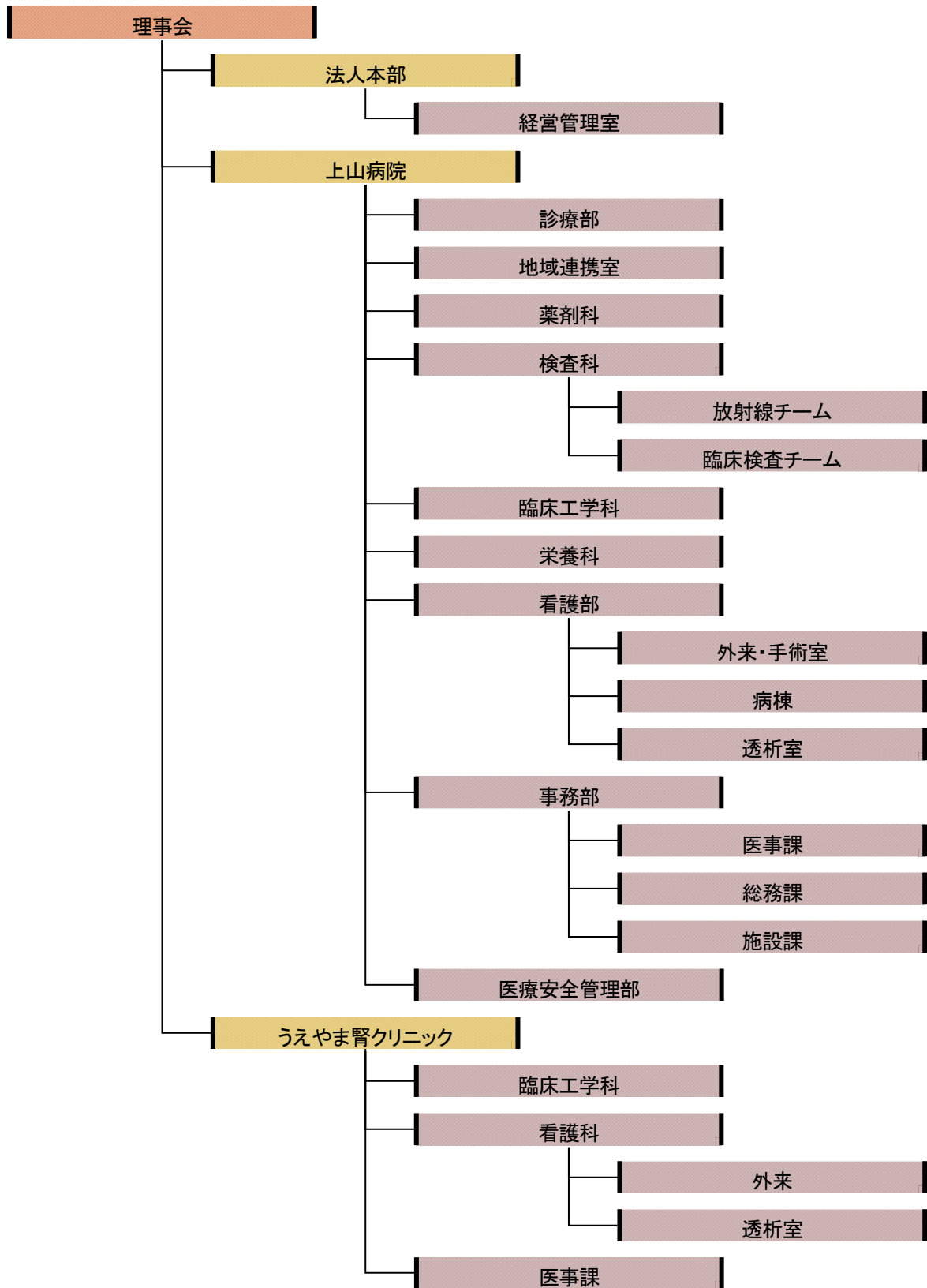
X線テレビ装置

凝固測定用経過時間タイマー

外科用C7-M

# 10 組織図

平成 25 年 4 月 1 日改正



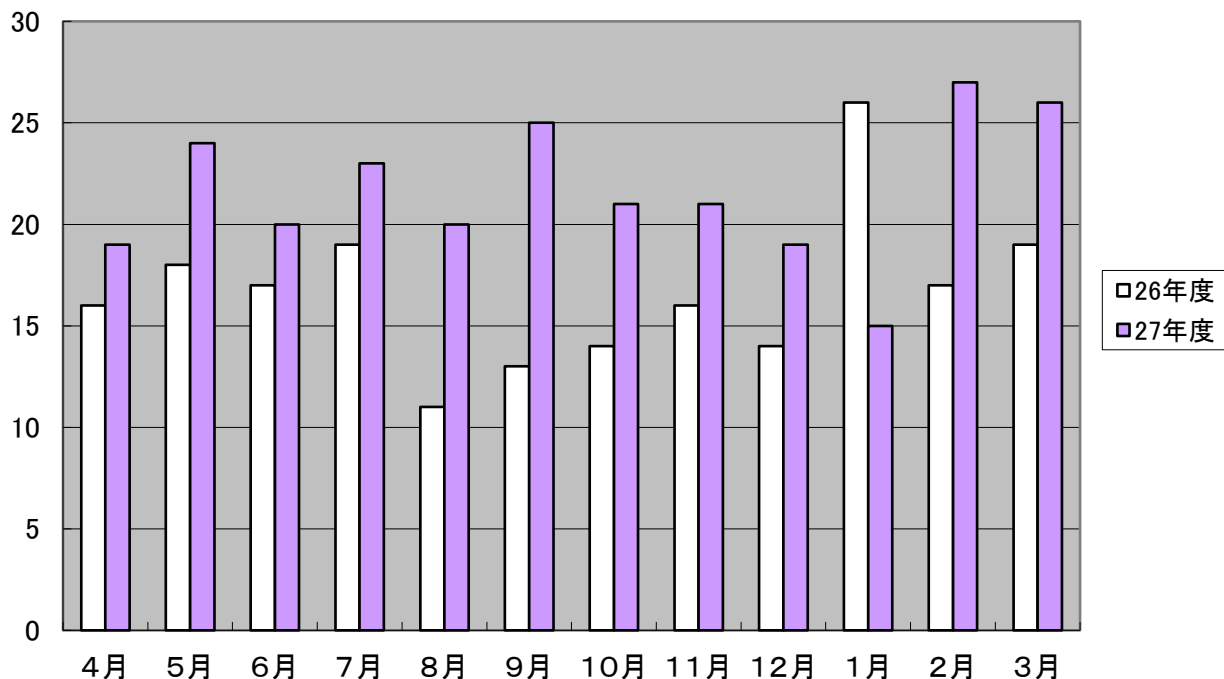
## 11 委員会活動

名称	内 訳	開催頻度	人数	委員会の活動内容
医療安全管理委員会		年 2 回	7 名	医療安全管理のための統括調整機能を果たす委員会。 医療安全管理のための組織に包括される各委員会の代表者と医療安全管理者から構成される。
第 1 委員会	医療安全	月 1 回	29 名	ヒヤリハット報告書の収集分析等を通して、医療事故の防止、安全かつ適切な医療の供給体制の確立を目的として活動する。
	医療事故		30 名	医療事故・医事紛争の予防対策の検討や医療事故発生時の原因究明・改善策の提案など、医事紛争を解決するための活動を行う。
	倫 理	隔月 1 回	10 名	倫理的諸問題を解決するための活動を行う。
第 2 委員会	感染対策	月 1 回	32 名	院内感染の予防対策や知識の啓蒙を図り、感染の発生防止体制の確立を目的として活動する。
	輸血療法			血液製剤の安全供給かつ適切な使用の実践が行われるための活動を行う。
第 3 委員会	安全衛生管理	月 1 回	25 名	職場の安全管理や職員の衛生管理を行う。
	医療ガス			医療用ガス及びその供給設備についての安全管理を行う。
第 4 委員会	褥瘡対策	月 1 回	21 名	入院患者様の褥瘡発生を防止し、発生した場合に適切な治療を行うための活動を行う。
	給 食			給食業務に関する連絡調整を行うと同時に、おいしい食事提供のために検食を行い、栄養士に意見を伝え、改善に努めることを目的とする。
第 5 委員会	薬事委員会	月 1 回	9 名	医薬品の適正使用及び管理や新規医薬品の採用の決定を行う。
第 6 委員会	透析機器安全管理	月 1 回	12 名	透析液の水質管理を行い、安全な透析を行うための活動を行う。
第 7 委員会	教 育	月 1 回	29 名	職員に対する院内教育についての企画・総括・調整を行います。また、年に1回、院内研究発表会を開催する。
	接遇マナー			外部講師による指導も受けながら、接遇向上のための活動を行う。委員は、学んだことを職場に持ち帰って、職員に実践してもらう役目を担う。

## 12 統計 (1)患者データ【上山病院】

### ①新入院患者数

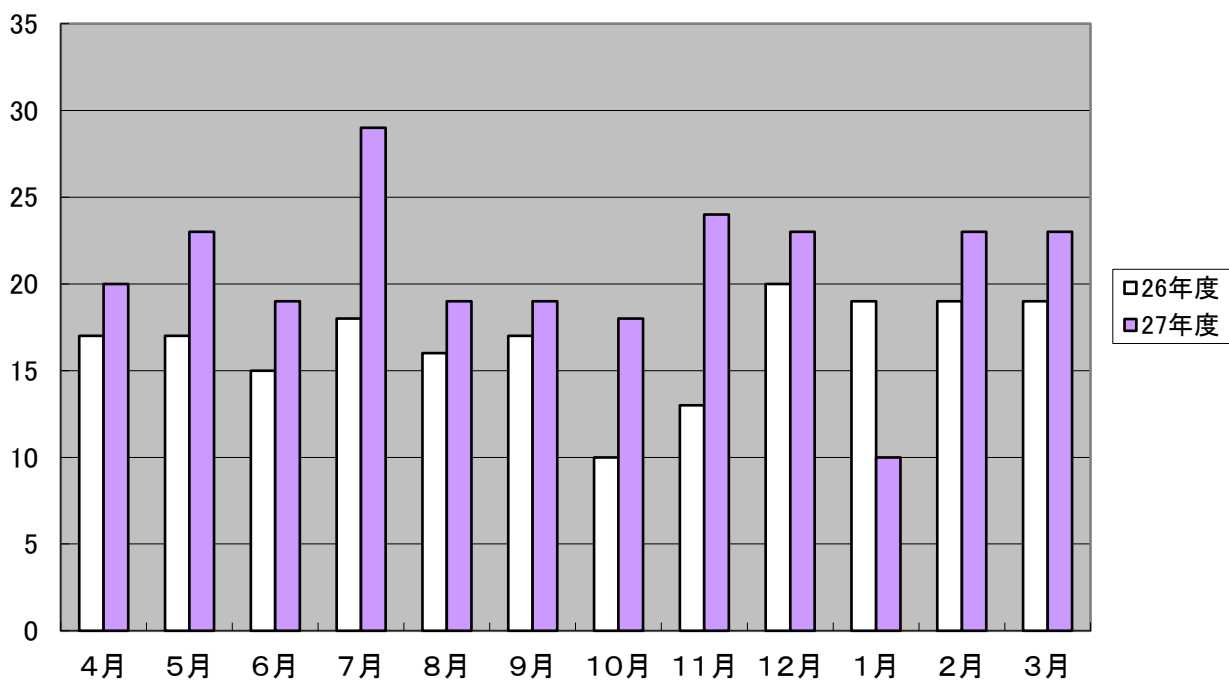
(人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	16	18	17	19	11	13	14	16	14	26	17	19	200
27年度	19	24	20	23	20	25	21	21	19	15	27	26	260

### ②退院患者数

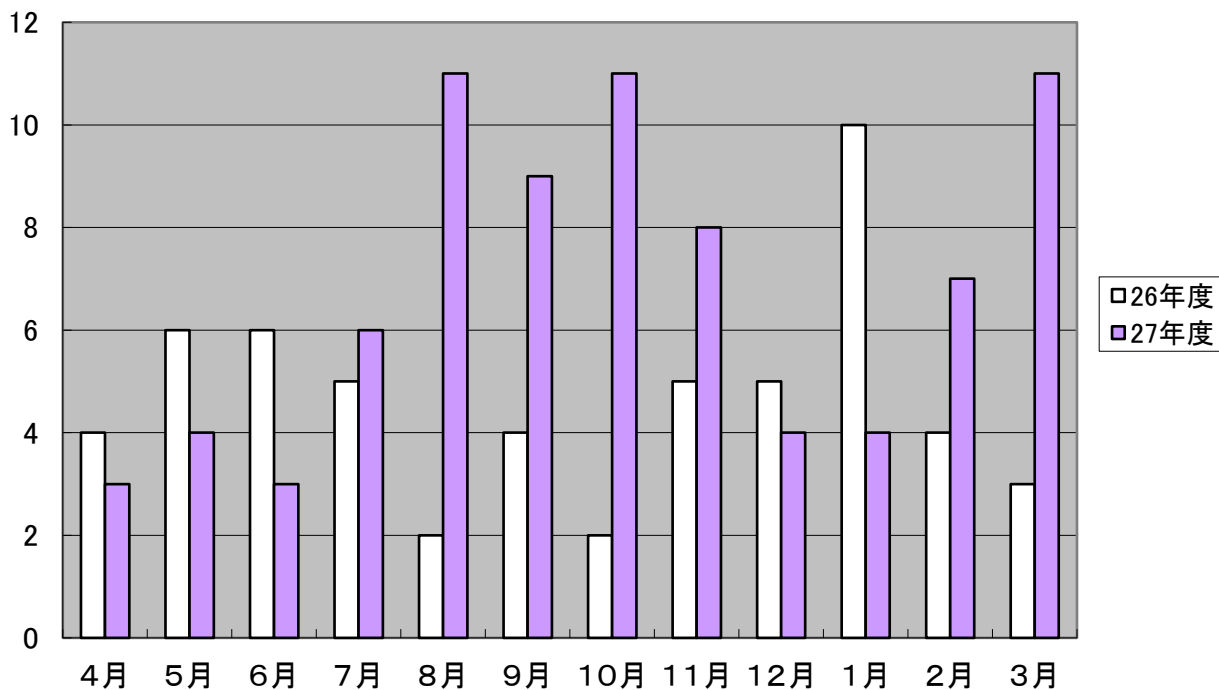
(人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	17	17	15	18	16	17	10	13	20	19	19	19	200
27年度	20	23	19	29	19	19	18	24	23	10	23	23	250

③ 入院患者件数(一般)

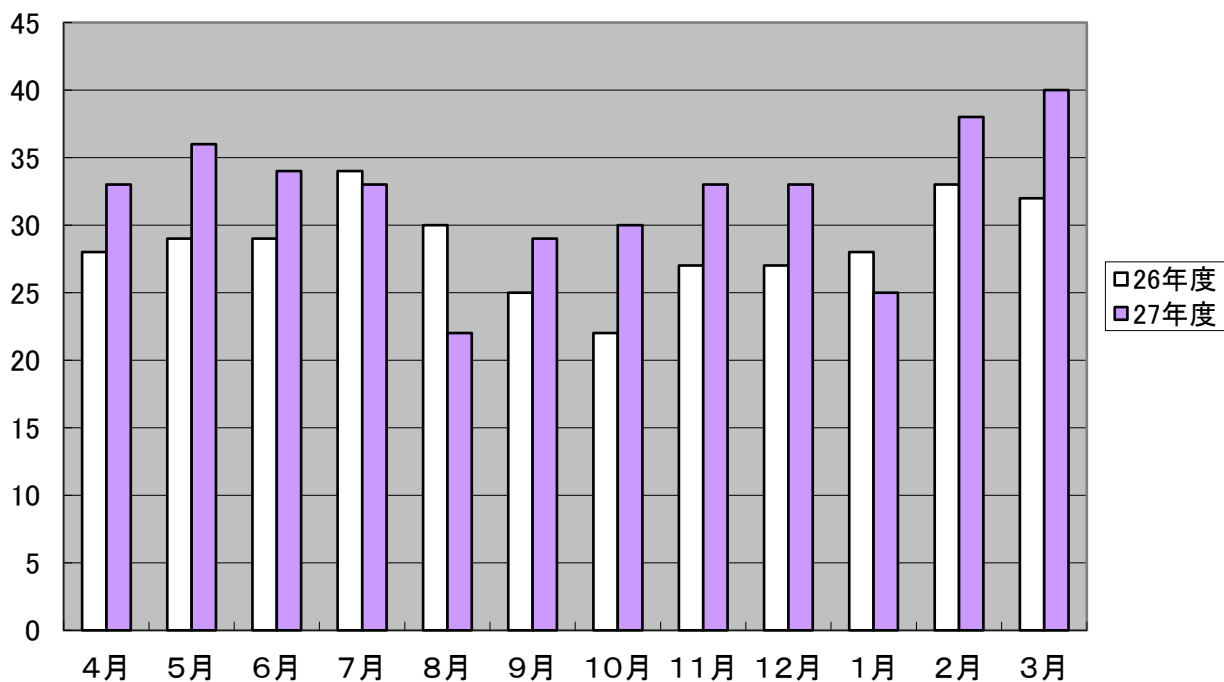
(件)



一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	4	6	6	5	2	4	2	5	5	10	4	3	56
27年度	3	4	3	6	11	9	11	8	4	4	7	11	81

④ 入院患者件数(透析)

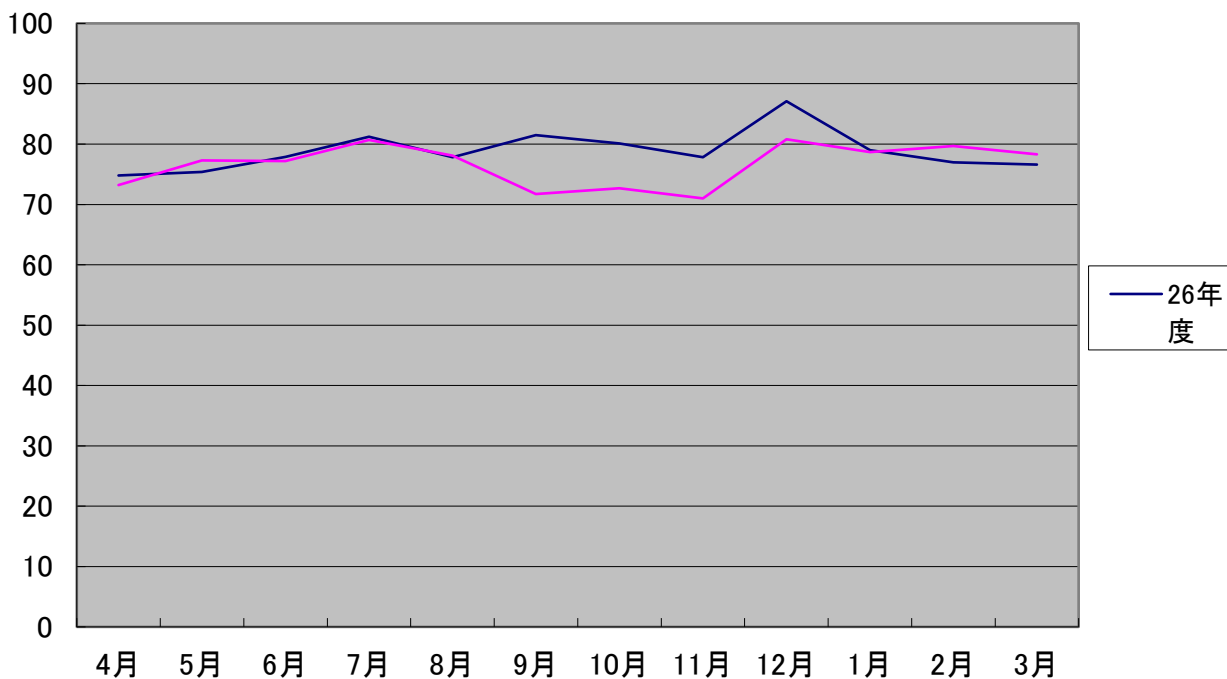
(件)



透析	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	28	29	29	34	30	25	22	27	27	28	33	32	344
27年度	33	36	34	33	22	29	30	33	33	25	38	40	386

⑤入院患者平均年齢

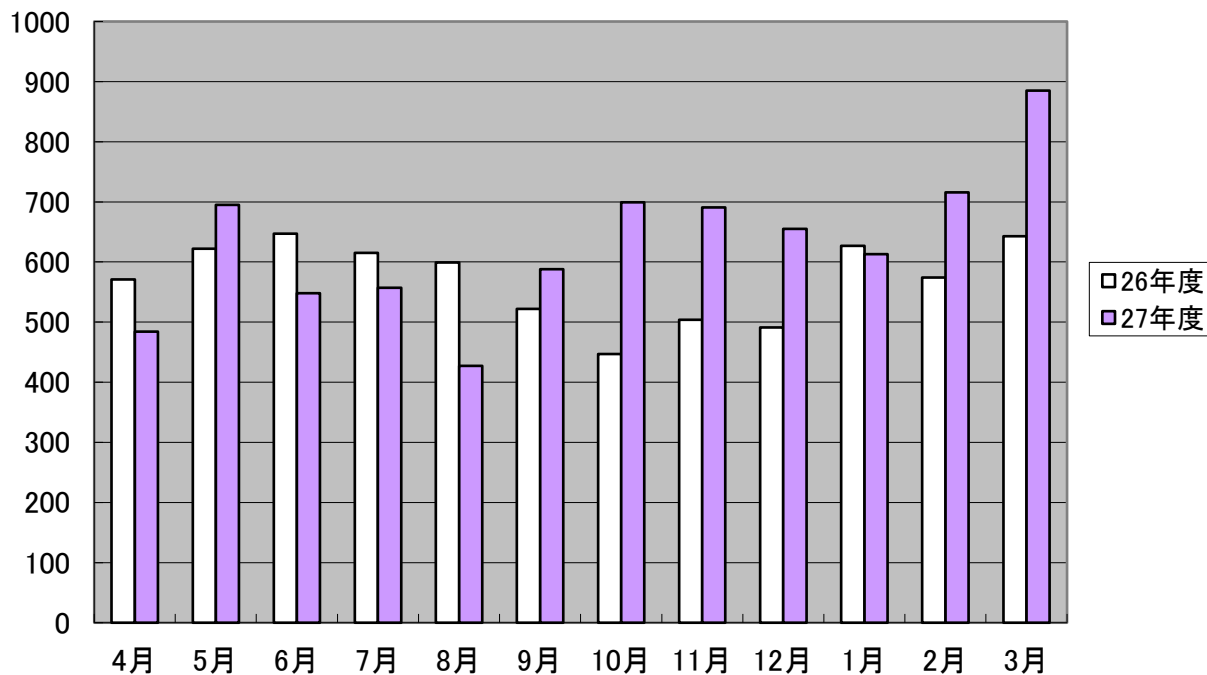
(歳)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
26年度	74.8	75.4	77.9	81.2	77.8	81.5	80.1	77.8	87.1	79	77	76.6	78.9
27年度	73.2	77.3	77.2	80.7	78.1	71.7	72.7	71	80.8	78.7	79.7	78.3	76.6

⑥入院日数

(日)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
26年度	571	622	647	615	599	522	447	504	491	627	574	643	571.8
27年度	484	695	548	557	427	588	699	691	655	613	716	885	629.8

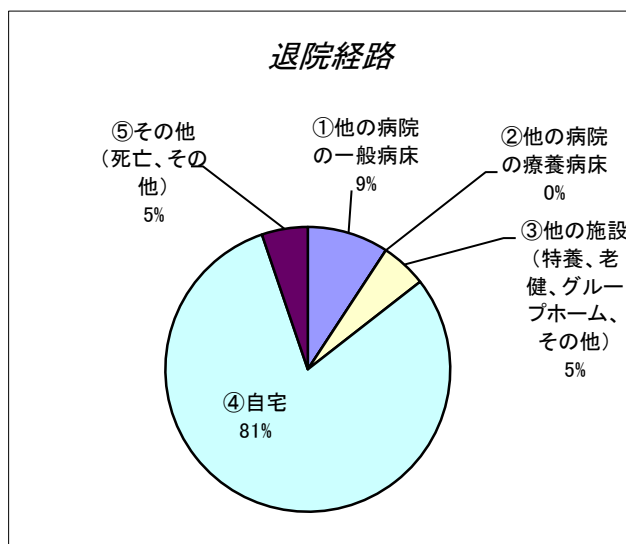
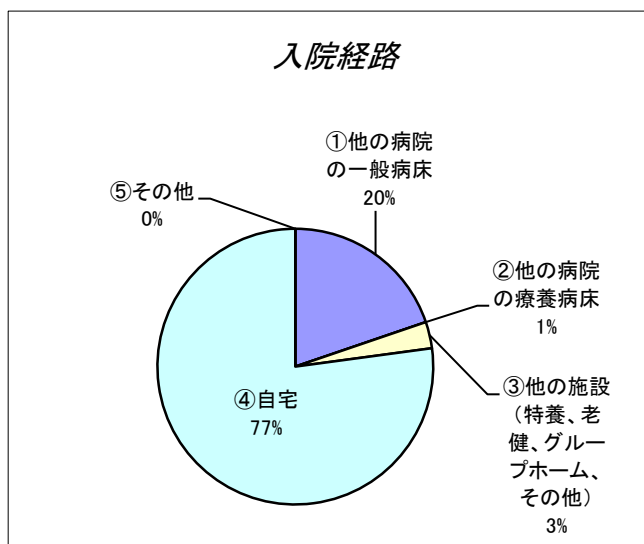
⑦入・退院患者経路

1. 入院経路（入院前の居場所）

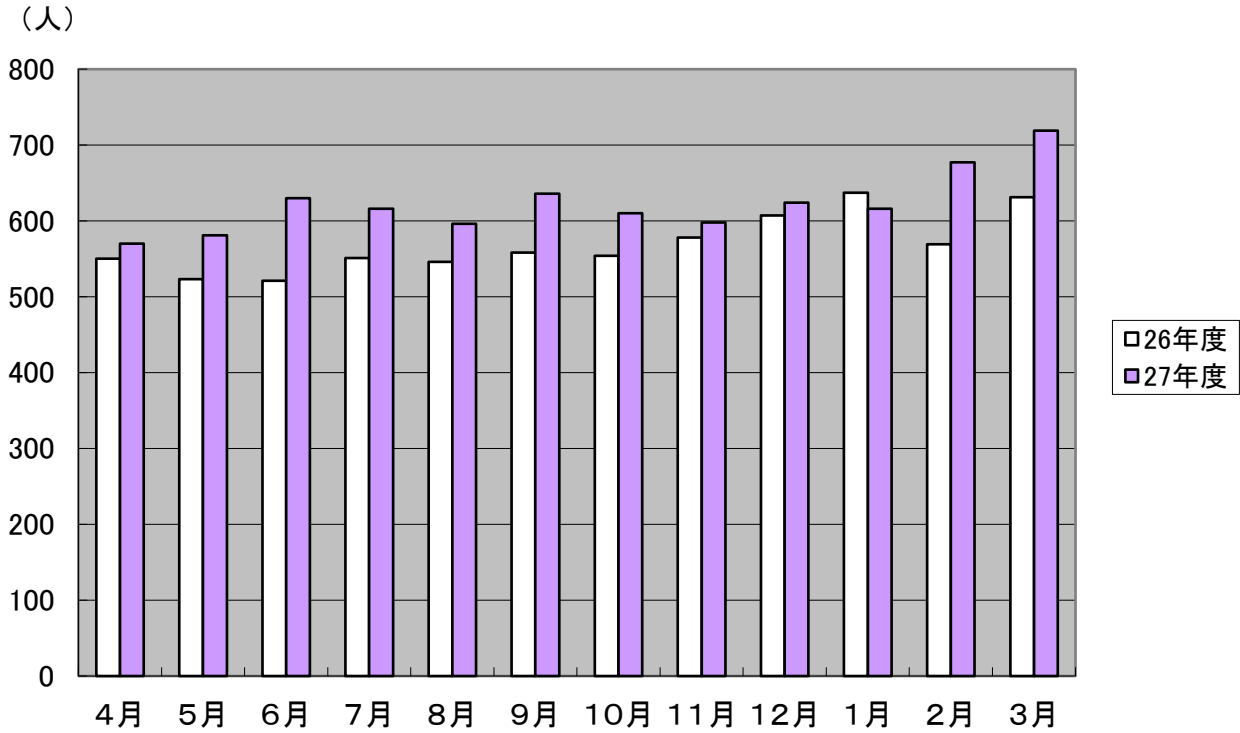
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①他の病院の一般病床	5	5	1	4	1	7	5	4	5	4	8	2	51
②他の病院の療養病床													0
③他の施設 （特養、老健、グループホーム、その他）		2		2	2	1						1	8
④自宅	14	17	19	15	17	17	16	17	14	11	19	23	199
⑤その他													0
<b>合 計</b>	<b>19</b>	<b>24</b>	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>20</b>	<b>25</b>	<b>21</b>	<b>21</b>	<b>19</b>	<b>15</b>	<b>27</b>	<b>26</b>	<b>258</b>

2. 退院経路（退院後の行き先）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①他の病院の一般病床	2	1	2	1		3	1	5	4	1	3	0	23
②他の病院の療養病床													0
③他の施設 （特養、老健、グループホーム、その他）		2		2	1	3	1	2		1		1	13
④自宅	13	19	16	25	18	13	14	16	19	7	18	22	200
⑤その他（死亡、その他）	4	1	1	1			2	1		1	2		13
<b>合 計</b>	<b>19</b>	<b>23</b>	<b>19</b>	<b>29</b>	<b>19</b>	<b>19</b>	<b>18</b>	<b>24</b>	<b>23</b>	<b>10</b>	<b>23</b>	<b>23</b>	<b>249</b>

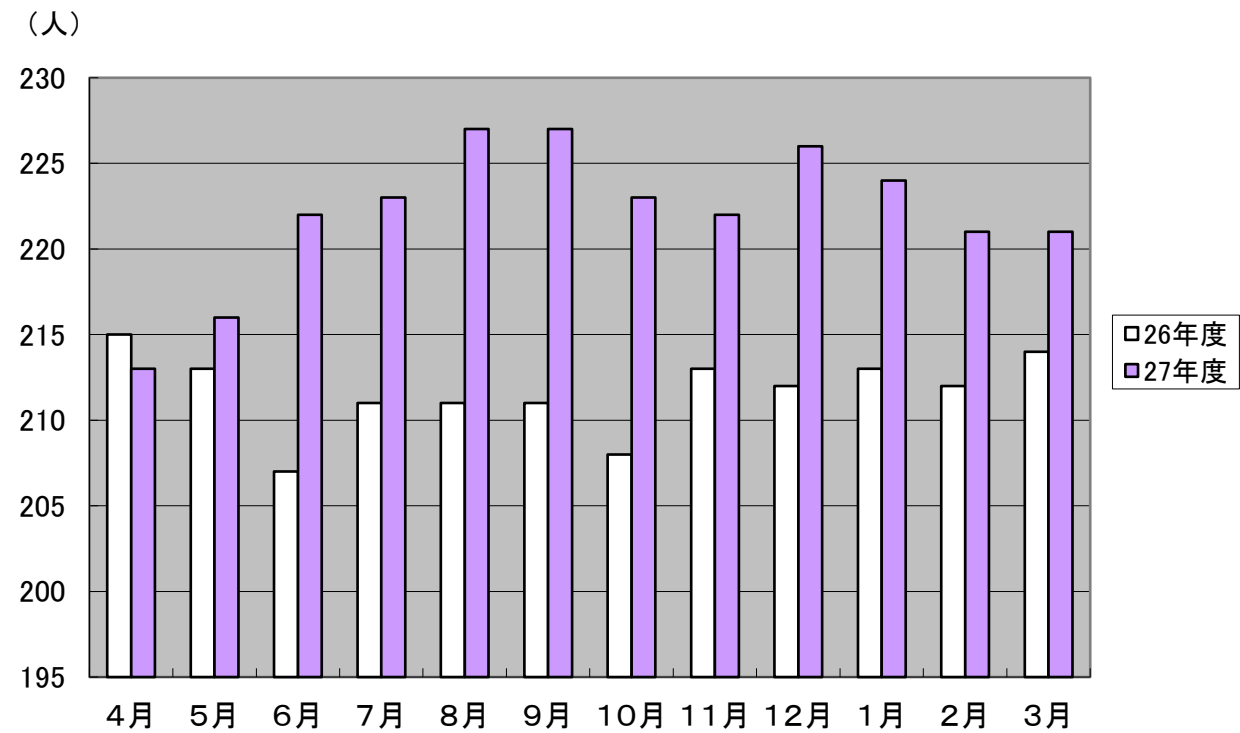


⑧ 外来患者数(一般)



一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	550	523	521	551	546	558	554	578	607	637	569	631	6,825
27年度	570	581	630	616	596	636	610	598	624	616	677	719	7,473

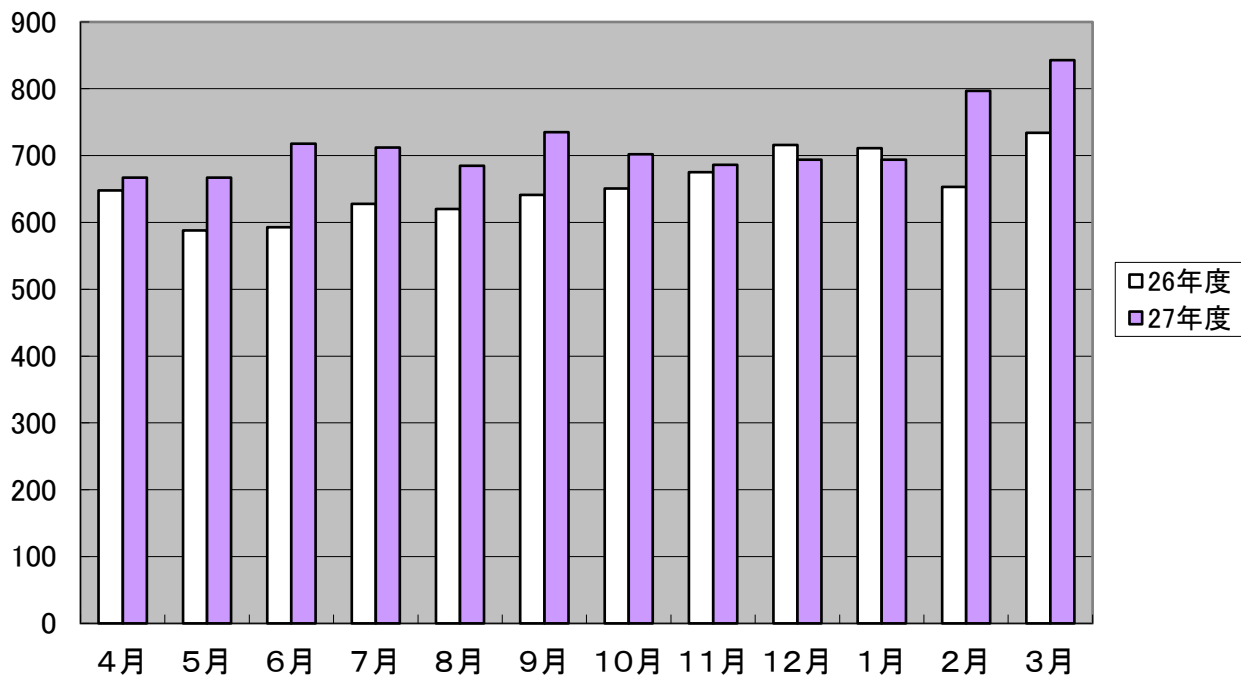
⑨ 外来患者数(透析)



透析	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	215	213	207	211	211	211	208	213	212	213	212	214	2,540
27年度	213	216	222	223	227	227	223	222	226	224	221	221	2,665

⑩外来診療回数(一般)

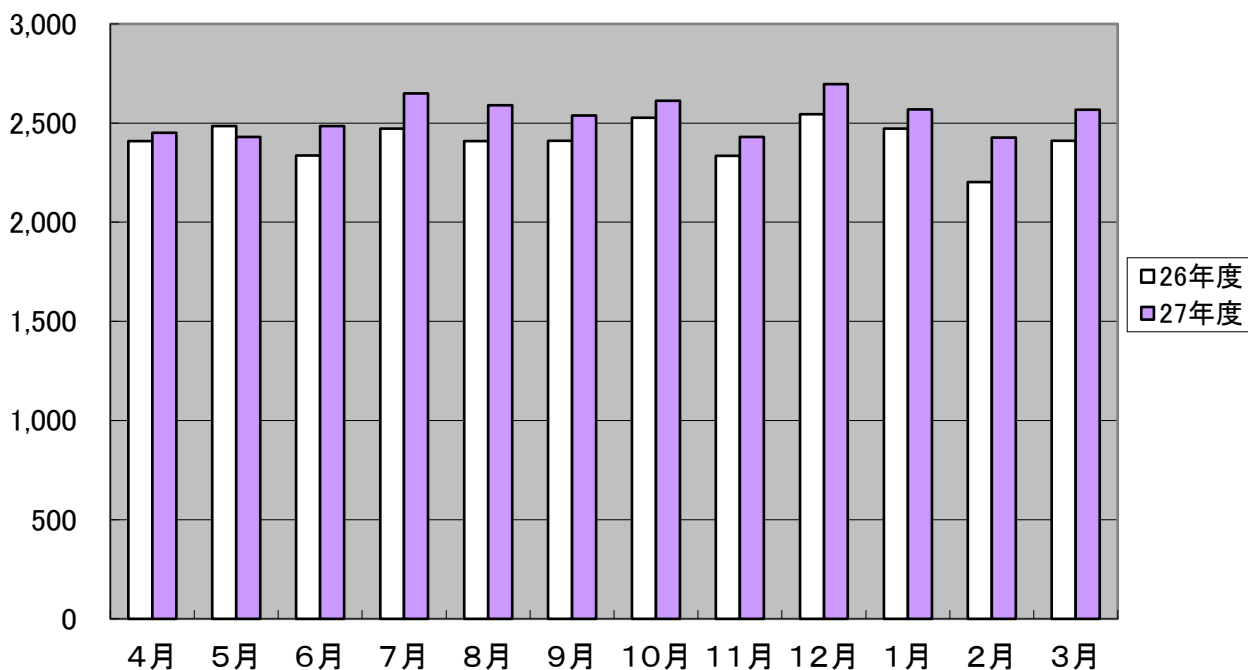
(回)



一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	648	588	593	628	620	641	651	675	716	711	653	734	7,858
27年度	667	667	718	712	685	735	702	686	694	694	797	843	8,600

⑪外来診療回数(透析)

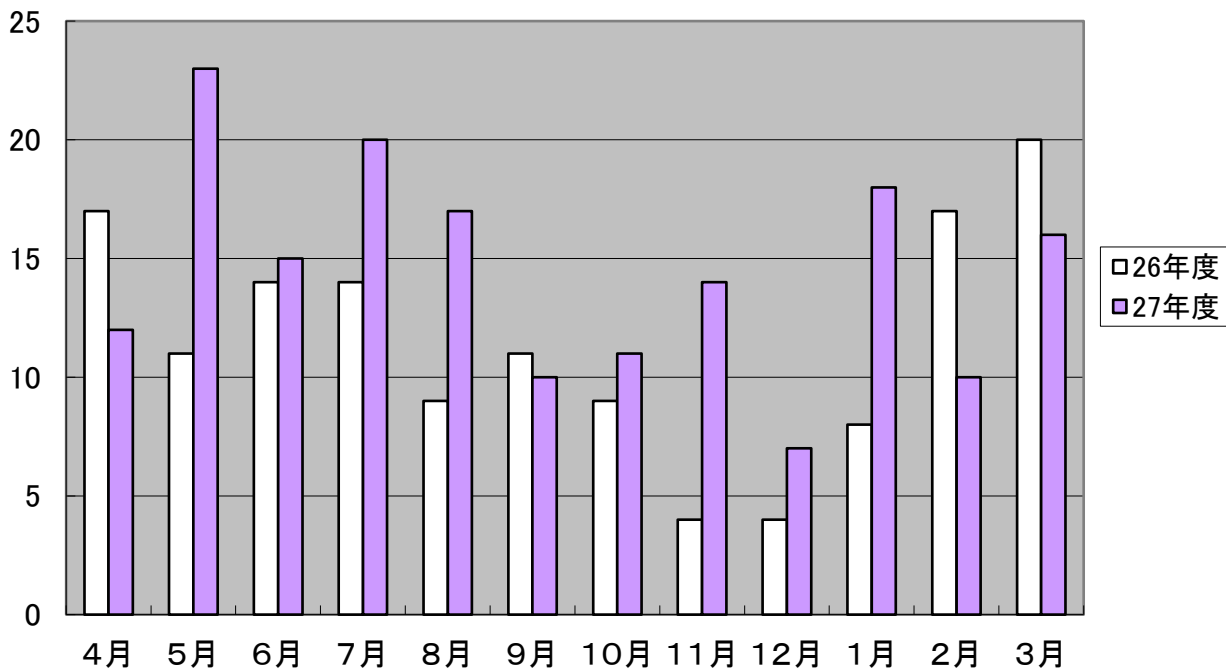
(回)



透析	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	2,409	2,485	2,337	2,472	2,409	2,411	2,527	2,335	2,545	2,472	2,202	2,411	29,015
27年度	2,451	2,430	2,485	2,650	2,590	2,538	2,613	2,430	2,696	2,569	2,426	2,568	30,446

⑫ 紹介受け入れ患者数

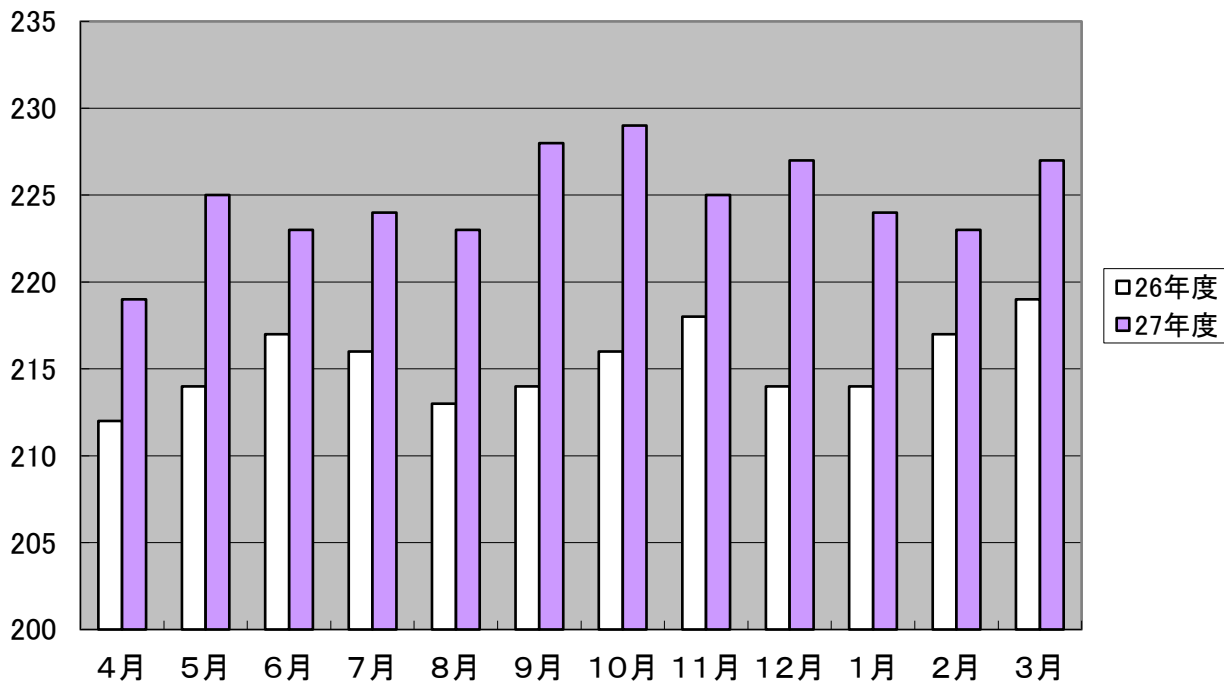
(人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	17	11	14	14	9	11	9	4	4	8	17	20	138
27年度	12	23	15	20	17	10	11	14	7	18	10	16	173

⑬ 維持透析患者数

(人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	212	214	217	216	213	214	216	218	214	214	217	219	2,584
27年度	219	225	223	224	223	228	229	225	227	224	223	227	2,697

## ⑭ 禁煙外来

	平成26年度	平成27年度
新規受診者数	10	12
うち成功者数	5	4

※これまでの総数119名受診中43名成功

## ⑮ 健診件数

平成26年度	特定健診		学童腎検	労災二次健診	職場健診
	国保	社保			
4月	9	0	0	1	28
5月	7	0	1	1	27
6月	7	2	7	0	7
7月	5	1	1	1	10
8月	3	0	2	0	4
9月	8	2	0	1	12
10月	4	1	0	0	16
11月	5	2	0	0	1
12月	7	0	0	0	4
1月	8	1	0	1	13
2月	2	1	0	0	12
3月	5	1	0	0	8
小計	70	11	11	5	142
合計	81				

## ⑩ 臨床検査データ

## 平成27年度検体数

## 血液検査件数

項目/外・入	外来	入院	検診	合計
T-Bil	92	28	3	123
AST	3797	294	498	4589
ALT	3798	294	498	4590
ALP	3163	243	270	3676
GGT	3376	255	498	4129
LDH	3083	267	270	3620
TG	3527	227	498	4252
HDL	3524	227	496	4247
LDL	3522	227	496	4245
BUN	7254	552	2	7808
CRE	7237	566	460	8263
UA	7256	529	69	7854
Na	7039	554	0	7593
K	7106	567	0	7673
Cl	7041	554	0	7595
Ca	6688	497	0	7185
IP	6699	496	0	7195
Fe	2814	203	0	3017
TP	3812	268	269	4349
ALB	3977	294	1	4272
A/G	3805	267	1	4073
BS	1070	63	495	1628
HbA1c	706	18	89	813
GA	1035	87	0	1122
フェリチン	1069	80	0	1149
血液一般	8424	680	426	9530
WBC分類	73	41	27	141
CRP	302	291	4	597
PET検査	31	5	0	36
尿検査	4481	49	453	4983
塩分摂取量	223	2	0	225
合計	116024	8725	5823	130572

## 超音波検査件数

部位/件数	H27.4～H28.3	合計
血管	1166	1166
頸部	215	215
腹部	357	357
心臓	435	435
合計	2173	2173

## 輸血血液型検査件数

部位/件数	H27.4～H28.3	合計
交差試験	30	30
抗体スクリーニング	30	30
血液型	45	45
合計	105	105

⑰ 撮影データ

撮影件数（H27年度）

	C T	上山病院			うえやま腎クリニック			合計
		定期胸部	一般	アンギオ・PTA	定期胸部	一般	アンギオ・PTA	
4月	27	213	111	13	77	5	0	446
5月	25	213	110	15	71	17	0	451
6月	27	224	56	27	73	5	0	412
7月	23	225	49	21	72	6	0	396
8月	28	227	49	15	72	2	0	393
9月	42	224	108	15	71	1	0	461
10月	41	223	180	12	71	16	0	543
11月	39	227	66	27	77	15	0	451
12月	38	226	65	16	73	17	0	435
1月	40	228	69	9	77	0	0	423
2月	39	225	69	24	74	2	0	433
3月	37	229	61	19	76	6	0	428
合計	406	2684	993	213	884	92	0	5272

C T 撮影部位別件数（H27年度）

頭部C T	54
胸部C T	103
腹部C T	279
頸部C T	3
下肢C T	0
合計	439

単純C T	370
造影C T	34

読影件数（H27年度）

	件数	読影回数
4月	25	4
5月	27	5
6月	23	4
7月	25	5
8月	32	4
9月	37	4
10月	46	5
11月	37	4
12月	35	4
1月	46	4
2月	40	4
3月	33	4
合計	406	51

⑩ 上山病院 臨床工学科データ

平成27年度 上山病院生菌検査結果一覧表

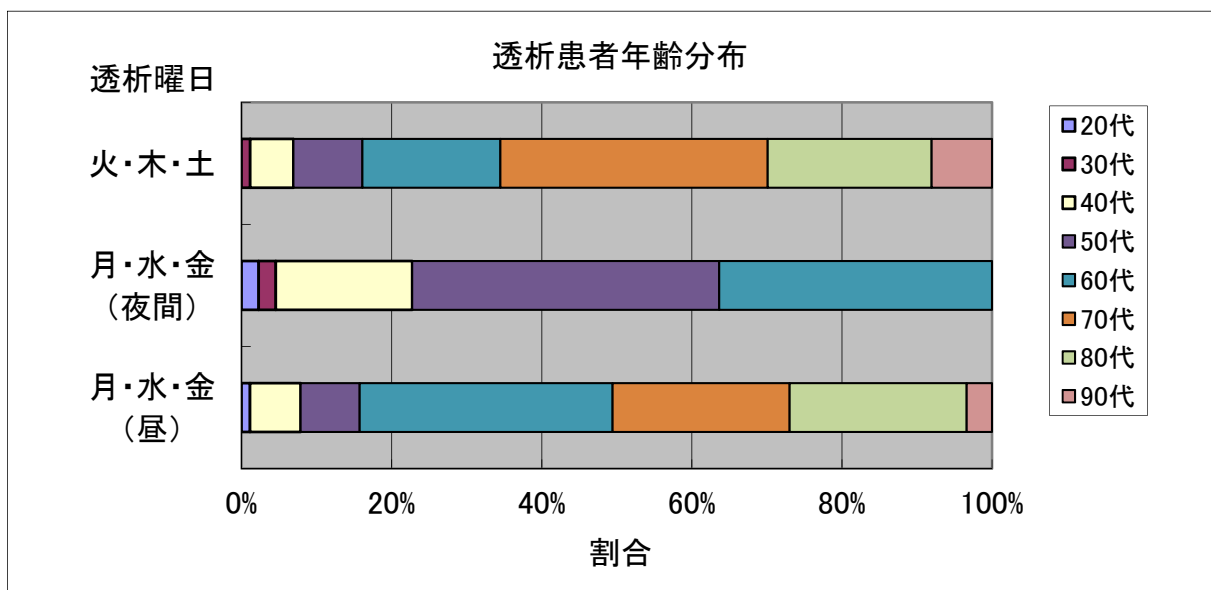
測定場所			測定日	検査結果 (CFU/mL)	管理基準 (CFU/mL)	備考
項目	配管および装置名					
水道水	原水	MIZ754QC-H(原水)		0.7	-	
前処理水	軟水	MIZ754QC-H(軟水)	9月14日	0.6	-	
処理水	処理水	MIZ754QC-H(RO膜直後)		0.1	100 未満	
	処理水送液ライン	UF①: RO配管(1系統)	10月5日	0.00		
		UF②: RO配管(2系統)		0.00		
2F透析原液 (1系統)	A剤自動溶解装置(1系統)	DRY-11A	9月14日	0.42	1未満	
	B剤自動溶解装置(1系統)	DRY-01		0.84		
2F供給装置 後透析液 1系統	モルセップ(1-①系統)	ET-5E	9月14日	0.00		
	モルセップ(1-②系統)	ET-5E		0.00		
2F透析原液 (2系統)	A剤自動溶解装置(2系統)	DRY-11A	10月5日	0.00		
	B剤自動溶解装置(2系統)	DRY-01	10月5日	0.00		
2F供給装置 後透析液 2系統	モルセップ(2-①系統)	ET-5E	10月5日	0.00		
	モルセップ(2-②系統)	ET-5E		0.00		
2 F 透 析 監 視 装 置 ( カ プ ラ 後 透 析 液 )	70	DCS-100NX	12月14日	0.00		
	9	DCS-27	12月14日	0.00		
	10	DCS-27	12月14日	0.00		
	40	DCS-27	1月18日	0.00		
	58	DCS-27	1月18日	0.00		
	61	DCS-27	2月1日	0.00		
	60	DCS-27	2月1日	0.00		
	71	DCS-100NX	2月1日	0.00		
	72	DCS-100NX	2月8日	0.00		
	73	DCS-100NX	2月8日	0.00		
	74	DCS-100NX	2月15日	0.00		
	135	DCS-100NX	2月15日	0.00		
	155	DCS-100NX	12月7日	0.00		
	20	DCS-27	12月7日	0.00		
	21	DCS-27	12月7日	0.00		
	64	DCS-27	12月7日	0.00		
	63	DCS-27	2月22日	0.00		
	159	DCS-100NX	2月22日	0.00		
	160	DCS-100NX	3月7日	0.00		
	161	DCS-100NX	3月7日	0.00		
	162	DCS-100NX	3月7日	0.00		
	163	DCS-100NX	3月14日	0.00		
	164	DCS-100NX	3月14日	0.00		
	11	DCS-27	4月6日	0.00		
	26	DCS-27	4月6日	0.00		
	27	DCS-27	4月6日	0.00		
	62	DCS-27	4月6日	0.00		
	29	DCS-27	4月13日	0.00		
	75	DCS-100NX	4月13日	0.00		
	131	DCS-100NX	4月13日	0.00		
	132	DCS-100NX	4月13日	0.00		
	133	DCS-100NX	4月20日	0.00		
	134	DCS-100NX	4月20日	0.00		
	28	DCS-27	4月20日	0.00		
136	DCS-100NX	4月20日	0.00			
137	DCS-100NX	5月11日	0.00			
138	DCS-100NX	5月11日	0.00			
139	DCS-100NX	5月11日	0.00			
140	DCS-100NX	5月11日	0.00			
141	DCS-100NX	5月19日	0.00			
142	DCS-100NX	5月19日	0.00			
143	DCS-100NX	5月19日	0.00			
144	DCS-100NX	5月19日	0.00			

平成27年度 上山病院生菌検査結果一覧表

項目	測定場所		測定日	検査結果 (CFU/mL)	管理基準 (CFU/mL)
	配管および装置名				
2F 透析監視装置 (カプラ後透析液)	145	TR-3300M	6月2日	0.00	1未満
	146	TR-3300M	6月2日	0.00	
	147	TR-3300M	6月2日	0.00	
	148	TR-3300M	6月2日	0.00	
	158	DCS-100NX	7月21日	0.00	
	150	TR-3300M	6月9日	0.00	
	151	TR-3300M	6月9日	0.00	
	152	TR-3300M	6月9日	0.00	
	コンソール No.44	DCS-27	6月15日	0.00	
	154	TR-3300M	6月15日	0.00	
	55	DCS-27	6月15日	0.00	
	56	DCS-27	6月15日	0.00	
	31	DCS-27	7月6日	0.00	
	32	DCS-27	7月6日	0.00	
	59	DCS-27	7月6日	0.00	
	34	DCS-27	7月6日	0.00	
	35	DCS-27	7月13日	0.00	
	36	DCS-27	7月13日	0.00	
	37	DCS-27	7月13日	0.00	
	38	DCS-27	7月13日	0.00	
	65	DCS-27	8月3日	0.00	
	66	DCS-27	8月3日	0.00	
	67	DCS-27	8月3日	0.00	
	68	DCS-27	8月3日	0.00	
	69	DCS-27	8月10日	0.00	
	39	DCS-27	8月10日	0.00	
33	DCS-27	8月10日	0.00		
41	DCS-27	8月10日	0.00		
42	DCS-27	8月18日	0.00		
43	DCS-27	8月18日	0.00		
106	DCS-26	8月18日	0.00		
処理水	UF③: RO配管(3系統)		4月20日	0.12	100未満
3F 透析原液	タンクA		10月19日	0.00	100未満
	B剤自動溶解装置	BFI-JP	10月19日	0.00	
3F供給装置 後透析液	モルセップ3	ET-3E	10月19日	0.00	
3F 透析監視装置 (カプラ後透析液)	14	DCS-27	11月2日	0.00	1未満
	15	DCS-27	11月2日	0.00	
	16	DCS-27	11月2日	0.00	
	107	DCS-26	11月2日	0.00	
	108	DCS-26	11月9日	0.00	
	109	DCS-26	11月9日	0.00	
	17	DCS-27	11月9日	0.00	
	149	TR-3300M	6月9日	0.00	
	153	TR-3300M	11月16日	0.00	
	110	DCS-26	11月16日	0.00	
	111	DCS-26	11月16日	0.00	
	112	DCS-26	11月16日	0.00	
	113	DCS-26	11月16日	0.00	
	114	DCS-26	12月21日	0.00	
	115	DCS-26	12月21日	0.00	
	121	DCS-26	12月21日	0.00	
	122	DCS-26	12月21日	0.00	
	9(個人)	DBG-02		9月1日	
個人用水処理装置	MH500CX		10月19日	0.50	100未満

⑱ 透析患者年齢分布（平成28年3月末現在） ※3階透析室も含む

	月・水・金 (昼)	月・水・金 (夜間)	火・木・土
20代	1	1	0
30代	0	1	1
40代	6	8	5
50代	7	18	8
60代	30	16	16
70代	21	0	31
80代	21	0	19
90代	3	0	7
合計	89	44	87



⑳ 給食状況 (H27年度)

ア 患者給食数

(単位：食、%)

項目		延給食数	一日平均給食数	職種別構成比	延給食数 対前年度比
一般食	常食	749	2.1	3.5	94.6
	流動食	0	0	0	0
特別食	腎臓疾患	19,048	52.2	88.0	107.1
	心臓疾患	139	0.4	0.6	144.8
	糖尿病	72	0.2	0.3	114.3
	経管栄養	1,635	4.5	7.6	148.8
合計		21,643	59.3	100	109.1

イ 個人栄養指導件数

(単位：件、%)

区分	項目	件数	対前年度比
外来患者		188	111.9
入院患者		74	125.4
合計		262	115.4

① 医療法人 腎愛会 上山病院 高齢透析患者 介護関連実態調査

平成27年6月30日時点

●はじめに

日本国民の高齢化は急速に進み、平成37年には団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題が控えており、透析患者を取り巻く環境も刻々と変化している。慢性透析患者の人数は年々増加しており、2005年に257,765人であったのが2015年には319,388人に達している。当院でも透析患者は年々増加しており、平成22年6月末の外來維持透析患者数が162名であったのが、平成27年6月末には223名となっている。また、透析導入平均年齢も上昇しており、当院の場合は平成22年～平成25年までは66.6歳～67.9歳であったが、平成26年度の透析導入平均年齢は71.1歳と急上昇した。

脳梗塞などの合併症を持つ患者が増えてきていることもあり、ADL等の低下を来した高齢患者も増加していることから、医療者側の負担ならびに患者側の負担も増加している。

また、透析患者のみならず、高齢者の生活環境は、インフォーマルな支援を受けづらい状況となっており、今後発展させる必要のある「地域包括ケアシステム」の重要性を裏付けるものとなっており、高齢透析患者にとっては通院等にかかる様々な労力の「振り分け」等も必要となってくると考えられる。

当院は、透析患者の急速な高齢化による要介護認定率や介護サービスの利用状況など、「福岡県における高齢透析患者の介護実態調査報告」に倣い、当院の実態を調査した。この調査から、当院の高齢透析患者の介護等の実態を把握し、より良い透析医療を形作る参考としたい。

年齢別対象者数 表1

年齢	男性	女性	合計	うち腹膜透析(HD併用含む)	割合(65～)	割合(全236名)
65～70未満	18	11	29	3	21.5%	12.3%
70～75未満	12	8	20	3	14.8%	8.5%
75～80未満	21	13	34	2	25.2%	14.4%
80～85未満	18	13	31	1	23.0%	13.1%
85～90未満	4	7	11	1	8.1%	4.7%
90以上	5	5	10	2	7.4%	4.2%
	78	57	135	12	100.0%	57.2%

1.対象および方法

1-1.調査対象 (表1)

当院における平成27年6月30日現在における満65歳以上、かつ透析導入済みの腹膜透析を含む、透析患者全員を対象とした(福岡県の調査では、導入後100日以上が経過していることを条件とされていたが、導入まで慢性腎臓病で加療されていたことを考え、透析導入直後の患者も対象とした)。

当院の透析患者数は236名(「はじめに」では外來:223名とし、引き算から13名が入院中ということになるが、実態調査では「長期入院」4名とし、短期入院中の患者はあてはまる入院以外の項目でカウントした)、調査対象となった65歳以上の高齢透析患者の総数は135名で当院透析患者全体の57.2%にあたる(男性78名、女性57名)。対象者の約8.9%にあたる12名の腹膜透析患者を含む(うち3名は血液透析と併用)。

当院の維持透析患者数を100%とした場合、65歳以上70歳未満の割合が12.3%(29名)、70歳以上75歳未満が8.5%(20名)、75歳以上80歳未満が14.4%(34名)、80歳以上85歳未満が13.1%(31名)、85歳以上90歳未満が4.7%(11名)、90歳以上が4.2%(10名)となっており、最高齢が95歳であった。

1-2.調査方法

当院の地域連携室で当院にかかっている患者の要介護認定報告(自治体から出されるもの)と、当院と連携のある介護支援専門員への確認、それ以外の方については患者本人か患者家族に要介護認定やサービス利用の有無を調査し、集計した。サービス利用状況については、介護支援専門員からの聞き取りを行い、集まった情報を表計算ソフトへ入力し、集計した。

表2-1

要介護認定率および介護度 全国・鹿児島県・鹿児島市 ※「人数」、認定者数はH27.5末時点のもの

人数	認定済	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
日本65歳以上	33,137,822	5,949,087	18.0%	14.7%	14.1%	19.8%	17.9%	13.4%	12.3%	10.2%
日本前期高齢者	17,226,835	755,999	4.4%	16.7%	15.9%	18.4%	17.8%	11.9%	10.1%	9.4%
日本後期高齢者	15,910,987	5,193,088	32.6%	14.2%	13.5%	19.6%	17.3%	13.2%	12.3%	9.9%
鹿児島県65歳以上	480,332	98,161	20.4%	13.8%	14.0%	20.0%	15.1%	12.8%	12.8%	11.5%
鹿児島県前期高齢者	216,182	8,746	4.0%	15.6%	15.8%	19.9%	15.8%	12.1%	10.7%	10.1%
鹿児島県後期高齢者	264,150	89,415	33.9%	13.7%	13.9%	20.0%	15.0%	12.9%	13.0%	11.6%
鹿児島市65歳以上	145,162	29,797	20.5%	14.0%	17.0%	21.8%	13.4%	11.9%	10.4%	11.5%
鹿児島市前期高齢者	73,314	3,369	4.6%	16.8%	17.5%	21.6%	13.9%	11.3%	8.7%	10.2%
鹿児島市後期高齢者	71,848	26,428	36.8%	13.6%	16.9%	21.8%	13.4%	12.0%	10.6%	11.7%

2.結果

2-1要介護認定率 (表2-1, 2-2)

(1)年齢階層別の認定率および介護度

当調査における65歳以上の要介護認定率は135名中62名で45.9%。前期高齢者は10名20.4%。後期高齢者は52名60.5%であった。65歳以上の5歳階級別認定率では、高齢になる程、認定率が高くなるという結果であった。全国、鹿児島県、鹿児島市、当院高齢透析患者と見比べても、鹿児島市までが認定率20%程であったのに対し、当調査では45.9%と明らかに高かった。

当院高齢透析患者の要介護度は、要支援1、3.2%、要支援2、27.4%、要介護1、19.4%、要介護2、21.0%、要介護3、8.1%、要介護4、12.9%、要介護5、8.1%であった。全国や鹿児島県、鹿児島市水準の調査では、比較的均等に分かれていたが、当院高齢透析患者の場合、要介護2までの軽度者が多く、要介護3以上の重度者は少なかった。

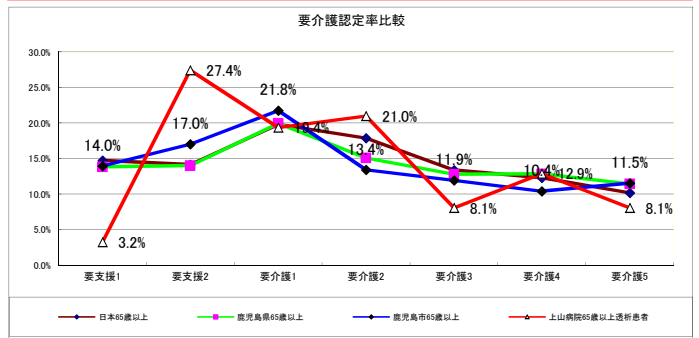


表2-2

要介護認定率および介護度 医療法人 腎愛会 上山病院

人数	認定済	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
65歳以上全体	135	62	45.9%	3.2%	27.4%	19.4%	21.0%	8.1%	8.1%
前期高齢者	49	10	20.4%	0.0%	20.0%	30.0%	30.0%	10.0%	0.0%
後期高齢者	86	52	60.5%	3.8%	28.8%	17.3%	19.2%	7.7%	15.4%
年齢別									
65～70未満	29	5	17.2%	0	1	2	2	0	0
70～75未満	20	5	25.0%	0	1	1	1	0	1
75～80未満	34	12	35.3%	1	2	3	2	2	0
80～85未満	31	22	71.0%	0	8	3	4	0	3
85～90未満	11	9	81.8%	0	2	2	2	1	2
90～95未満	7	7	100.0%	1	3	1	1	0	1
95～99未満	3	2	66.7%	0	0	0	0	1	1

表3-1

透析歴別要介護認定率(65歳以上)

透析歴	人数	男性	女性	認定数	認定率	平均透析歴	平均年齢
全患者	135	78	57	62	45.9%	08年11ヵ月	77.1
2年未満	28	17	11	11	39.3%	00年10ヵ月	77.0
2～5年未満	46	29	17	19	41.3%	03年4ヵ月	76.3
5～10年未満	30	15	15	17	56.7%	07年7ヵ月	79.9
10～15年未満	17	8	9	11	64.7%	12年2ヵ月	78.3
15～20年未満	5	3	2	0	0.0%	16年12ヵ月	70.4
20～25年未満	4	2	2	2	50.0%	21年4ヵ月	76.3
25～30年未満	3	2	1	1	33.3%	27年7ヵ月	69.0
30年以上	2	2	0	1	50.0%	32年10ヵ月	72.0

(2)透析歴別要介護認定率 (表3-1, 3-2)

65歳以上の高齢透析患者全体135名と、75歳以上の高齢透析患者における透析歴ごとの要介護認定率をみると、「65歳以上」では2～5年未満が最も多く、46名であり、要介護認定者は19名で要介護認定率は41.3%であった。透析歴が15年を超えると、人数は急に減り、その人数は14名で対象者全体の10.4%であった。その14名の要介護認定率は28.6%であり、透析歴15年未満全体121名の要介護認定率47.9%より大幅に低かった。要介護認定率が最も高い透析歴群は10～15年未満で、64.7%であった。

表3-2

透析歴別要介護認定率(75歳以上)

透析歴	人数	男性	女性	認定数	認定率	平均透析歴	平均年齢
2年未満	19	11	8	9	47.4%	00年9ヵ月	81.0
2～5年未満	28	18	10	16	57.1%	03年5ヵ月	81.2
5～10年未満	21	9	12	16	76.2%	07年8ヵ月	84.1
10～15年未満	12	6	6	9	75.0%	11年10ヵ月	82.3
15～20年未満	2	1	1	0	0.0%	17年3ヵ月	75.0
20～25年未満	3	2	1	1	33.3%	21年9ヵ月	78.0
25～30年未満	0	0	0	0	0.0%	—	—
30年以上	1	1	0	1	100.0%	32年6ヵ月	75.0

「75歳以上」でも2～5年未満が最も多く、75歳以上80名中28名で、そのうち16名が要介護認定者で要介護認定率は57.1%であった。ここでも「65歳以上」同様、透析歴15年を超えると人数が急に減り、75歳以上80名中6名が透析歴15年以上、そのうち2名が要介護認定者で、要介護認定率は33.3%であった。透析歴30年以上が1名であり、この1名が要介護認定者でもあることから、認定率100%となっており、ここは別にして要介護認定率が最も高かったのは透析歴群は5～10年未満の21名中16名、76.2%というものであった。

世帯類別要介護認定率

表4-1

世帯類別	人数	男性	女性	平均年齢	平均透析歴	介護保険 認定者数	介護サービス 認定率	利用者数	利用率
全体	135	78	57	77.1	06年11ヵ月	62	45.9%	50	80.6%
1 独居世帯	16	4	12	75.05	08年8ヵ月	9	56.3%	9	100.0%
2 高齢者のみの世帯	52	39	13	75.36	05年12ヵ月	16	30.8%	11	68.8%
3 65歳未満と同居	58	29	29	78.82	06年7ヵ月	30	51.7%	26	86.7%
4 施設入居	5	3	2	79.0	09年12ヵ月	5	100.0%	5	100.0%
5 長期入院	4	3	1	80.6	13年7ヵ月	2	50.0%	0	0.0%

世帯類別介護度

表4-2

世帯類別	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	2; 3.2%	17; 27.4%	12; 19.4%	13; 21.0%	5; 8.1%	8; 12.9%	5; 8.1%
1 独居世帯	0; 0.0%	3; 17.6%	1; 8.3%	3; 23.1%	1; 20.0%	1; 12.5%	0; 0.0%
2 高齢者のみの世帯	1; 50.0%	5; 29.4%	3; 25.0%	2; 15.4%	2; 40.0%	1; 12.5%	2; 40.0%
3 65歳未満と同居	1; 50.0%	9; 52.9%	8; 66.7%	6; 46.2%	1; 20.0%	4; 50.0%	1; 20.0%
4 施設入居	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 7.7%	1; 20.0%	1; 12.5%	2; 40.0%
5 長期入院	0; 0.0%	0; 0.0%	0; 0.0%	1; 7.7%	0; 0.0%	1; 12.5%	0; 0.0%

(3) 世帯類別要介護認定率と要介護度 (表4-1, 4-2)

全対象者135名の居住状況を調査したところ、126名が自宅での生活していた(93.3%)。世帯類別要介護認定率をみると、独居世帯と、若年者と同居の世帯でそれぞれ要介護認定率が56.3%と51.7%と高く、高齢者のみの世帯は52名中16名の要介護認定者で、要介護認定率30.8%と低めであった。65歳未満の若年者との同居で要介護認定率が高いのは、同居者が日中仕事等で外出することから生じる「日中独居」が関連していると考えられる。当然だが、施設入居者の要介護認定率は100%であった。  
世帯類別介護度では、5名いる要介護5のうち3名が自宅で生活していることに注目したい。今後、要介護度が重度の患者が自宅で療養をするためのシステムは発達と普及が進むと考えられる。

通院状況

表5-1

	人数	独力通院	家族送迎	当院送迎	タクシー等	敷地内移動	平均年齢	平均透析歴	入院中
全体	135	40	12	66	13	0	77.1	06年11ヵ月	4
		29.6%	8.9%	48.9%	9.6%	0.0%			3.0%
要支援1	2	0	0	2	0	0	85.0	00年12ヵ月	0
		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%			0.0%
要支援2	17	2	1	14	0	0	82.2	06年9ヵ月	0
		11.8%	5.9%	82.4%	0.0%	0.0%			0.0%
要介護1	12	2	2	7	1	0	78.6	06年8ヵ月	0
		16.7%	16.7%	58.3%	8.3%	0.0%			0.0%
要介護2	13	0	2	8	3	0	80.6	09年2ヵ月	1
		0.0%	15.4%	61.5%	23.1%	0.0%			7.7%
要介護3	5	0	1	3	1	0	81.6	04年10ヵ月	0
		0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%			0.0%
要介護4	8	0	1	4	2	0	82.4	08年2ヵ月	1
		0.0%	12.5%	50.0%	25.0%	0.0%			12.5%
要介護5	5	0	0	1	4	0	80.8	05年10ヵ月	0
		0.0%	0.0%	20.0%	80.0%	0.0%			0.0%

表5-2

年齢別	人数	独力通院	家族送迎	当院送迎	タクシー等	敷地内移動	平均年齢	平均透析歴	入院中
65~70未満	29	18	0	9	1	0	66.9	08年8ヵ月	1
		62.1%	0.0%	31.0%	3.4%	0.0%			3.4%
70~75未満	20	9	0	8	1	0	71.8	06年10ヵ月	1
		45.0%	0.0%	40.0%	5.0%	0.0%			5.0%
75~80未満	34	8	6	16	3	0	76.8	06年6ヵ月	0
		23.5%	17.6%	47.1%	8.8%	0.0%			0.0%
80~85未満	31	3	3	19	6	0	82.0	06年4ヵ月	0
		9.7%	9.7%	61.3%	19.4%	0.0%			0.0%
85~90未満	11	0	1	7	0	0	86.6	06年6ヵ月	2
		0.0%	9.1%	63.6%	0.0%	0.0%			18.2%
90以上	10	0	2	6	2	0	92.1	05年5ヵ月	0
		0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%			0.0%
25~30年未満	3	1	0	1	0	0	69.0	27年7ヵ月	1
		33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%			33.3%

表5-3

透析歴別	人数	独力通院	家族送迎	当院送迎	タクシー等	敷地内移動	平均年齢	平均透析歴	入院中
2年未満	28	9	6	10	1	0	77.0	00年10ヵ月	1
		32.1%	21.4%	35.7%	3.6%	0.0%			3.6%
2~5年未満	46	14	2	25	4	0	76.3	03年4ヵ月	0
		30.4%	4.3%	54.3%	8.7%	0.0%			0.0%
5~10年未満	30	7	2	14	4	0	79.9	07年7ヵ月	2
		23.3%	6.7%	46.7%	13.3%	0.0%			6.7%
10~15年未満	17	2	1	12	2	0	78.3	12年2ヵ月	0
		11.8%	5.9%	70.6%	11.8%	0.0%			0.0%
15~20年未満	5	3	1	1	0	0	70.4	16年12ヵ月	0
		60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%			0.0%
20~25年未満	4	2	0	2	0	0	76.3	21年4ヵ月	0
		50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%			0.0%
25~30年未満	3	1	0	1	0	0	69.0	27年7ヵ月	1
		33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%			33.3%
30年以上	2	0	0	0	2	0	72.0	32年10ヵ月	0
		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%			0.0%

2-2通院状況

(1) 要介護度別通院状況 (表5-1, 5-2, 5-3)

当院の高齢透析患者135名の通院状況は、48.9%にあたる66名が当院送迎車を利用している。独力通院が40名29.6%(自家用車運転、徒歩、公共交通機関)、介護タクシーを含むタクシー等での通院が13名9.6%。家族による送迎での通院が12名8.9%であった。

要介護認定者で独力通院をしているのは4名と、要介護認定者62名の6.5%にとどまり、当院送迎車を利用する要介護認定者は39名と要介護認定者62名の62.9%を占めた。タクシー等の利用については「福祉有償運送」の利用が「要介護1」以上に限られるため、要介護認定者の「福祉有償運送」の利用は11名、他の2名は通常のタクシーでの通院であった。

(2) 年齢別通院状況

独力通院は65歳~70歳未満では29名のうち18名、62.1%であった。70歳~75歳未満、75歳~80歳未満と高齢になるにつれて独力通院は減少する傾向にあった。家族送迎は75歳~80歳未満は6名という人数が最多であったが、その他の年齢階層では目立った差は無かった。当院送迎は、80歳~85歳未満台では31名中19名の61.3%が利用し、65歳~70歳未満では29名中9名31.0%と大きな差があった。

(3) 透析歴別通院状況

目立つところを述べると、独力通院は透析歴2~5年未満が多く、46名中14名30.4%。家族送迎は透析導入後2年未満で6名。当院送迎は2~5年未満が25名、タクシー等は透析歴による差は見られなかった。

因みに、当調査対象者135名中66名が当院送迎車を利用中である。当院系列のうえやま腎クリニックを除いて83名程が当院への通院のために当院送迎車を利用している。

	要介護認定者		利用介護サービス																	
	認定者数	認定率	通所介護	通所リハビリ	小規模多機能	訪問リハビリ	訪問看護	訪問介護	福祉有償運送	福祉用具貸与	その他	訪問介護	福祉有償運送	福祉用具貸与	その他					
全対象患者	62	10	21	2	2	3	11	27	9	20	3									
%	100.0	16.1%	33.9%	3.2%	3.2%	4.8%	17.7%	43.5%	14.5%	32.3%	4.8%									
性別																				
男性	29	6	7	24.1%	1	3.4%	2	6.9%	0	0.0%	6	20.7%	11	37.9%	5	17.2%	8	27.6%	0	0.0%
女性	33	4	14	42.4%	1	3.0%	0	0.0%	3	9.1%	5	15.2%	16	48.5%	4	12.1%	12	36.4%	3	9.1%
介護度別																				
要支援1と2	19	5	3	15.8%	1	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	4	21.1%	5	26.3%	0	0.0%	5	26.3%	0	0.0%
要介護1と2	25	4	10	40.0%	0	0.0%	1	4.0%	2	8.0%	4	16.0%	9	36.0%	2	8.0%	7	28.0%	2	8.0%
要介護3～5	18	1	8	44.4%	1	5.6%	1	5.6%	1	5.6%	3	16.7%	13	72.2%	7	38.9%	8	44.4%	1	5.6%
世帯類別																				
独居	9	0	5	55.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	22.2%	7	77.8%	1	11.1%	5	55.6%	0	0.0%
高齢者世帯	16	5	1	6.3%	2	12.5%	1	6.3%	0	0.0%	2	12.5%	10	62.5%	4	25.0%	4	25.0%	0	0.0%
若年者と同居	30	5	12	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	10.0%	6	20.0%	7	23.3%	2	6.7%	11	36.7%	2	6.7%
施設入居	5	0	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	1	20.0%
年齢別																				
前期高齢者	10	0	3	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	20.0%	4	40.0%	1	10.0%	2	20.0%	1	10.0%
後期高齢者	52	10	18	34.6%	2	3.8%	2	3.8%	3	5.8%	9	17.3%	23	44.2%	8	15.4%	18	34.6%	2	3.8%
85歳以上	18	1	6	33.3%	1	5.6%	0	0.0%	1	5.6%	4	22.2%	7	38.9%	2	11.1%	10	55.6%	2	11.1%
透析歴別																				
5年未満	30	7	9	30.0%	2	6.7%	1	3.3%	0	0.0%	9	30.0%	12	40.0%	5	16.7%	9	30.0%	0	0.0%
5～10年未満	17	3	5	29.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	11.8%	1	5.9%	7	41.2%	2	11.8%	6	35.3%	1	5.9%
10～15年未満	11	0	5	45.5%	0	0.0%	1	9.1%	1	9.1%	1	9.1%	5	45.5%	2	18.2%	4	36.4%	2	18.2%
15～20年未満	0	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20年以上	4	0	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%

2-3高齢透析患者の介護サービス利用状況 (表6)

(1)「全対象患者」介護サービス利用状況

当院の65歳以上の透析患者135名のうち、62名が要介護認定を受けている。このうち10名は介護サービスを利用していなかった。最も利用が多かったのが訪問介護で43.5%。次に通所介護で33.9%。福祉用具貸与32.3%、訪問看護17.7%と続いた。その他のサービスには「入居施設サービス」「短期入所」が含まれ、4.8%であった。

(2)性別介護サービス利用状況

通所介護、訪問介護、福祉用具貸与で女性>男性が見られ、他のサービスにおいては大きな差は見られなかった。サービス利用率は男性79.3%、女性87.9%であった。

(3)介護度別

要支援、要介護軽度、要介護重度と分けて比較すると、通所介護、訪問介護、福祉用具貸与は重度になるほど利用率が高くなっていった。

(4)世帯類別介護サービス利用状況

若年者と同居では、通所介護と福祉用具貸与が高く、独居と高齢者世帯では訪問介護の利用率が高かった。

(5)年齢別

前期高齢者と後期高齢者と比較して、どのサービスについても後期高齢者の方が利用者数が多かったが、85歳以上における利用率では、福祉用具貸与以外は高くはなかった。

(6)透析歴別

訪問看護については透析歴15年未満までの3群で大きな差は無かった。また、福祉用具貸与も各透析歴群でまんべんなく利用者があった。

性別による比較(人数・年齢・要介護度)

表7-1

	人数	平均年齢	介護保険		認定者平均年齢	要介護度													
			認定者数	認定率		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5							
全体	135	77.1	62	45.9%	81.1	2	3.2%	17	27.4%	12	19.4%	13	21.0%	5	8.1%	8	12.9%	5	8.1%
男性	78	76.3	29	37.2%	81.9	1	3.4%	9	31.0%	5	17.2%	4	13.8%	3	10.3%	4	13.8%	3	10.3%
女性	57	78.1	33	57.9%	80.5	1	3.0%	8	24.2%	7	21.2%	9	27.3%	2	6.1%	4	12.1%	2	6.1%

性別による比較(腹膜透析・透析歴・居住環境・通院方法)

表7-2

	腹膜透析人数	平均透析歴	介護サービス		居住環境					通院方法								
			利用者数	利用率	入院中	施設入居	独居世帯	独力通院	家族送迎	当院送迎	タクシー等							
全体	12	03年3ヵ月	50	80.6%	4	3.0%	5	3.7%	16	11.9%	38	28.1%	12	8.9%	65	48.1%	13	9.6%
男性	7	02年6ヵ月	21	72.4%	3	3.8%	3	3.8%	4	5.1%	29	37.2%	5	6.4%	31	39.7%	8	10.3%
女性	5	04年4ヵ月	29	87.9%	1	1.8%	2	3.5%	12	21.1%	9	15.8%	7	12.3%	34	59.6%	5	8.8%

2-4性別による比較 (表7-1, 7-2)

今回の調査では、男性78名、女性57名と男性が多かったが、要介護認定者は男性29名、女性33名と人数に大きな差は無く、要介護認定率は男性37.2%、女性57.9%と大きな差があった。要介護度別で男女差がはっきりしていたのは要介護2(身体的には日常動作や行動を一人で行うことが困難、認知機能的には問題行動があったり、理解力の低下があったりする程度)で、女性が男性より倍程度多かった。平均透析歴は、男性より女性の方が2年ほど長かった。居住環境では、独居世帯で差があり、独居の方16名のうち75%の12名が女性であった。通院方法では独力通院の38名のうち29名76.3%が男性だった。その他の通院方法で目立った男女差は見られなかった。

介護施設入居者の状況

表8

総数	男性	女性	平均年齢	平均透析	介護保険		要介護度別							
					認定数	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
5	2	3	79.0	09年12月	5	100.0%	0	0	0	1	1	1	2	
主な通院方法					居住・生活環境									
腹膜透析	自力通院	隣接施設内を介助で移動	家族送迎	当院送迎	タクシー等	特別養護老人ホーム	ケアハウス等	認知症対応型共同生活介護	住宅型有料老人ホーム	小規模多機能施設	サ高住	介護付き有料老人ホーム	0	
													0.0%	0.0%

2-5施設入居者の状況 (表8)

施設入居中の方が5名あり、その内訳は介護付き有料老人ホームが1名、住宅型有料老人ホームが4名であった。住宅型有料老人ホームへ入居中の4名のうち、1名が「小規模多機能施設」も利用中とのことであったが、介護保険サービスの制度上問題が生じないのか疑問であった。施設入居者の要介護度は、全員要介護2以上であった。通院方法は、当院送迎車を3名利用していた。他は福祉有償運送利用で通院。

独居世帯 高齢透析患者の状況

表9

総数	男性	女性	平均年齢	平均透析	介護保険		要介護度別							
					認定数	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
16	4	12	75.4	09年2月	9	56.3%	0	3	1	3	1	1	0	
主な通院方法					通院先施設形態									
腹膜透析	自力通院	隣接施設内を介助で移動	家族送迎	当院送迎	タクシー等	病院	診療所	年齢				80歳以上		
								65~70未満	70~75未満	75~80未満	80歳以上			
0	3	0	1	10	2	16	0	6	2	3	5			
								18.8%	0.0%	0.0%	62.5%	12.5%	100.0%	0.0%

2-6独居世帯高齢透析患者の状況 (表9)

対象者の中には独居が16名あり、女性が12名と多く、要介護認定率は56.3%。要介護度別では要介護3、要介護4にそれぞれ1名ずついるところに注目したい。要介護3の方は急性期治療の直後のADLが良くない時期に要介護認定調査を受けていることから、要介護度が高くなった可能性がある。要介護4の方は認知機能低下があり、要介護度が高くなったようである。通院方法は、当院送迎車が多く62.5%。年齢階層別では目立った差は無かった。

高齢者世帯 高齢透析患者の状況

表10

総数	男性	女性	平均年齢	平均透析	介護保険		要介護度別							
					認定数	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
52	39	13	75.4	05年12月	16	30.8%	1	5	3	2	2	1	2	
主な通院方法					通院先施設形態									
腹膜透析	自力通院	隣接施設内を介助で移動	家族送迎	当院送迎	タクシー等	病院	診療所	年齢				80歳以上		
								65~70未満	70~75未満	75~80未満	80歳以上			
6	20	0	5	20	6	52	0	11	13	14	14			
								38.5%	0.0%	0.0%	38.5%	11.5%	100.0%	0.0%

2-7高齢者世帯高齢透析患者の状況 (表10)

52名中39名75%が男性。要介護認定率は30.8%。要介護認定者16名のうち68.8%11名が要介護2以下の軽度者であった。52名の年齢階層別には大きな人数の差は無く、通院方法では自力通院が20名38.5%、当院送迎が20名利用38.5%で目立っていた。

高齢腹膜透析患者の状況

表11

総数	男性	女性	平均年齢	平均透析	介護保険		要介護度別							
					認定数	認定率	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
12	7	5	77.4	03年3月	4	33.3%	0	1	1	1	1	0	0	
主な通院方法					通院先施設形態									
腹膜透析	自力通院	隣接施設内を介助で移動	家族送迎	当院送迎	タクシー等	病院	診療所	年齢				80歳以上		
								65~70未満	70~75未満	75~80未満	80歳以上			
0	6	0	6	0	0	12	0	3	3	2	4			
								50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%

2-8高齢腹膜透析患者の状況 (表11)

12名の通院があり、血液透析と併用して加療している方が3名、要介護認定率は4名33.3%。通院は自力通院6名、家族送迎6名と半々に分かれた。年齢階層別に人数の大きな差は見られなかった。

●まとめ

当院で今回実施した調査では、65歳以上が135名あり、この方々が対象者で平均年齢は77.1歳だった。このうち62名が要介護認定を受けており、要介護認定率は45.9%であった。135名のうち男性が78名(57.8%)、女性が57名(42.2%)。男性78名のうち29名が要介護認定者(認定率37.2%)で、女性57名のうち33名が要介護認定者(認定率57.9%)であった。

要介護認定者62名のうち男性が29名(46.8%)、女性が33名(53.2%)。62名の平均介護度は要介護1.74。男性の要介護認定者の平均介護度は要介護1.79、女性は要介護1.69であった。

要介護認定者の平均年齢は81.1歳。要介護認定者男性の平均年齢は81.9歳、同じく女性は80.5歳であった。

要介護認定率45.9%というのは全国、鹿児島県、鹿児島市と比較して高く、前期高齢者、後期高齢者と分けて見ても大きく高かった。「はじめに」で述べたように、当院の透析導入平均年齢は平成22年度～平成25年度まで66.6歳～67.9歳であったが、平成26年度は71.0歳と大きく上昇し、当院の要介護認定者のデータにも大きな影響があった可能性はある。

要介護度については、全国、鹿児島県、鹿児島市とも各要介護度に大きな差は無かったが、当院の調査では要介護認定者は要介護2までの軽度者に集中していた。他の高齢者と比べて合併症が多い高齢透析患者に軽度者が多いのは、要介護度が上がることなく全身状態が悪化し、介護サービスで在宅復帰に至るようなプロセスを経る必要がなくなるケースが多いことも影響している可能性がある。

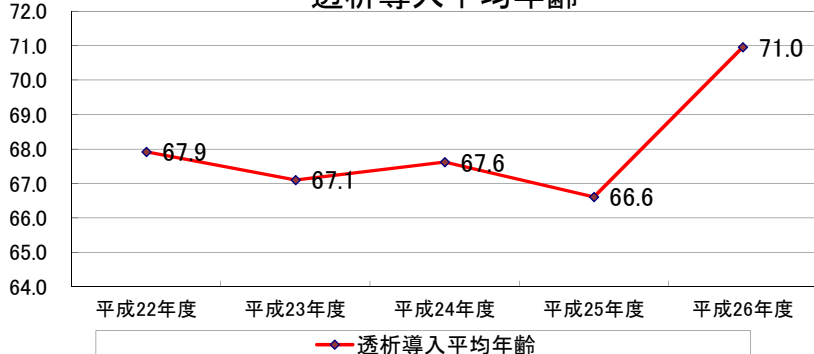
透析を受けている要介護者の在宅復帰が困難となった場合に入所施設への経路形成を行うケースがあるが、透析患者の入所は主として有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅に限定されることが多く、さらにそれらの自費系施設でも透析患者の入居を受けるところは限定されており、要介護透析患者の療養の場の作りにくさは課題となっている。今後も継続的に対策を検討したい。

参考

医療法人 腎愛会 上山病院 透析療法 導入平均年齢

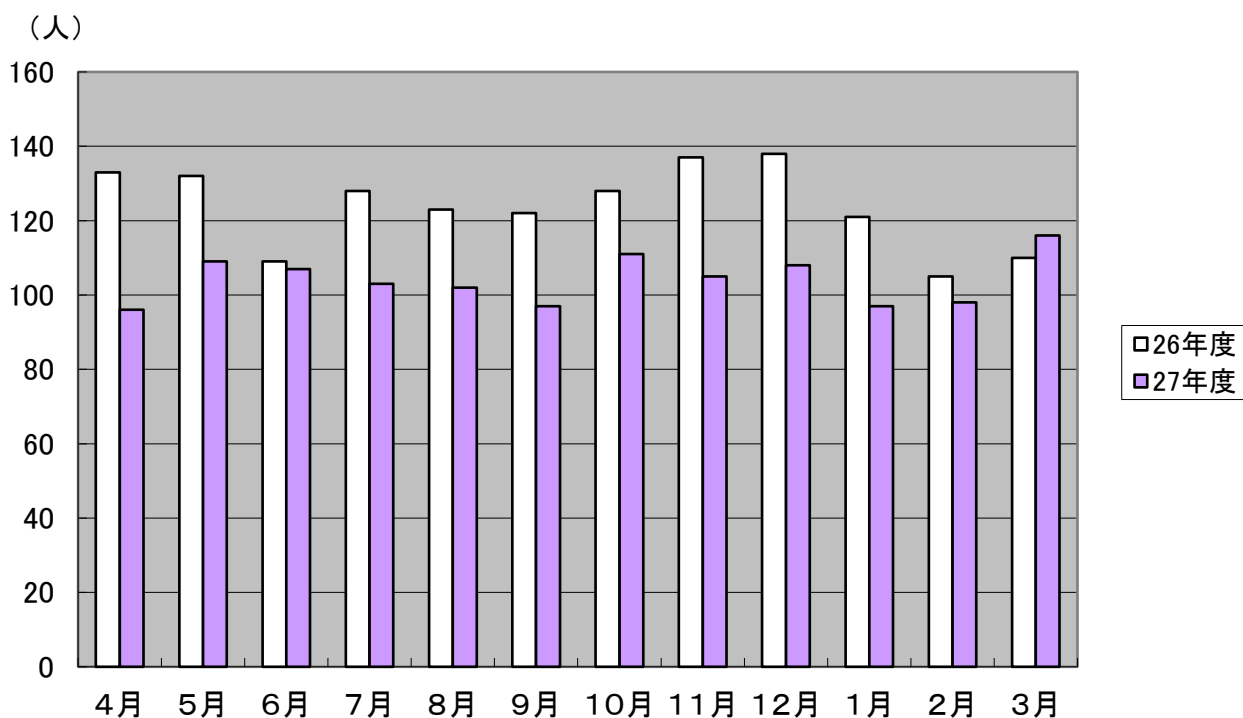
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
透析導入平均年齢	67.9	67.1	67.6	66.6	71.0

透析導入平均年齢



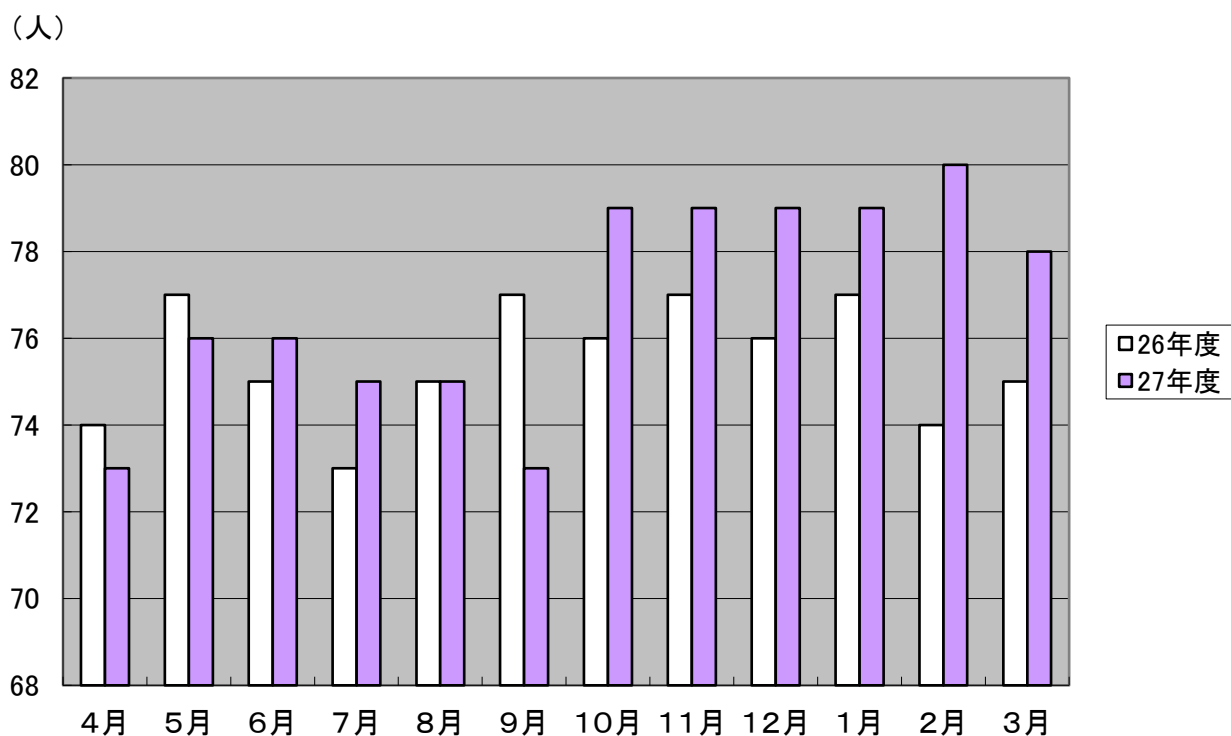
(2)患者データ【うえやま腎クリニック】

① 外来患者数(一般)



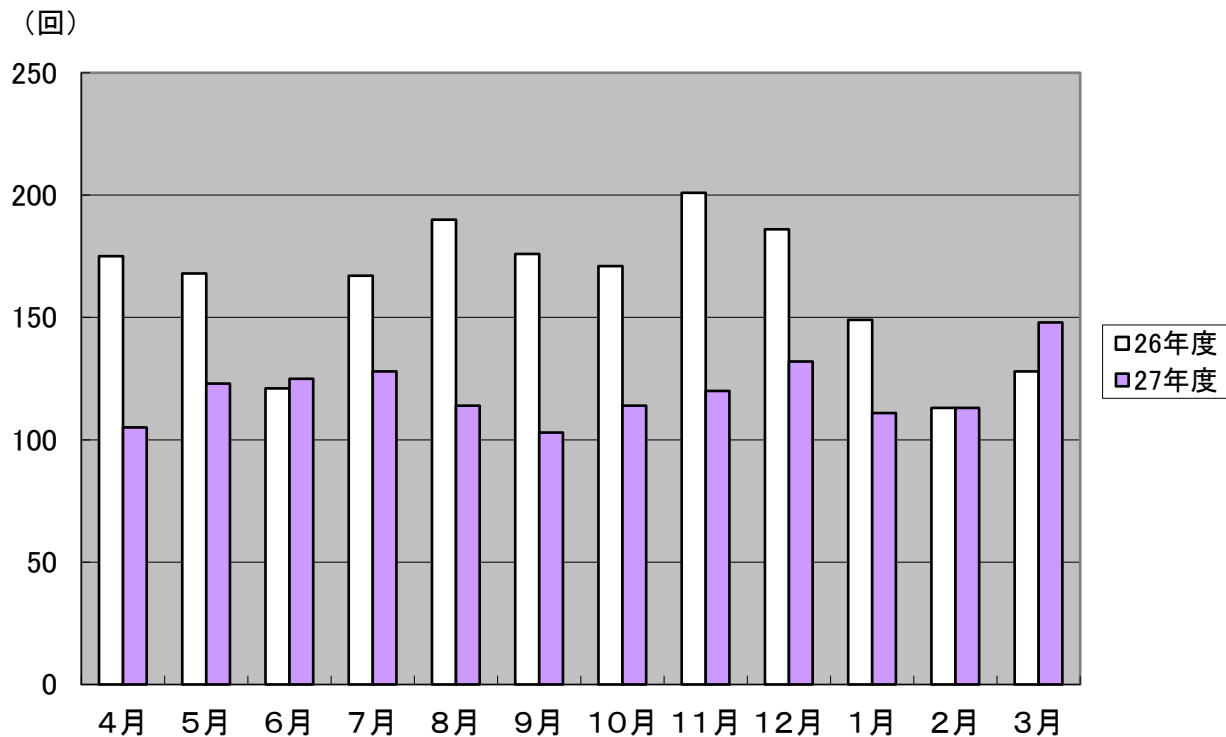
一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	133	132	109	128	123	122	128	137	138	121	105	110	1,486
27年度	96	109	107	103	102	97	111	105	108	97	98	116	1,249

② 外来患者数(透析)



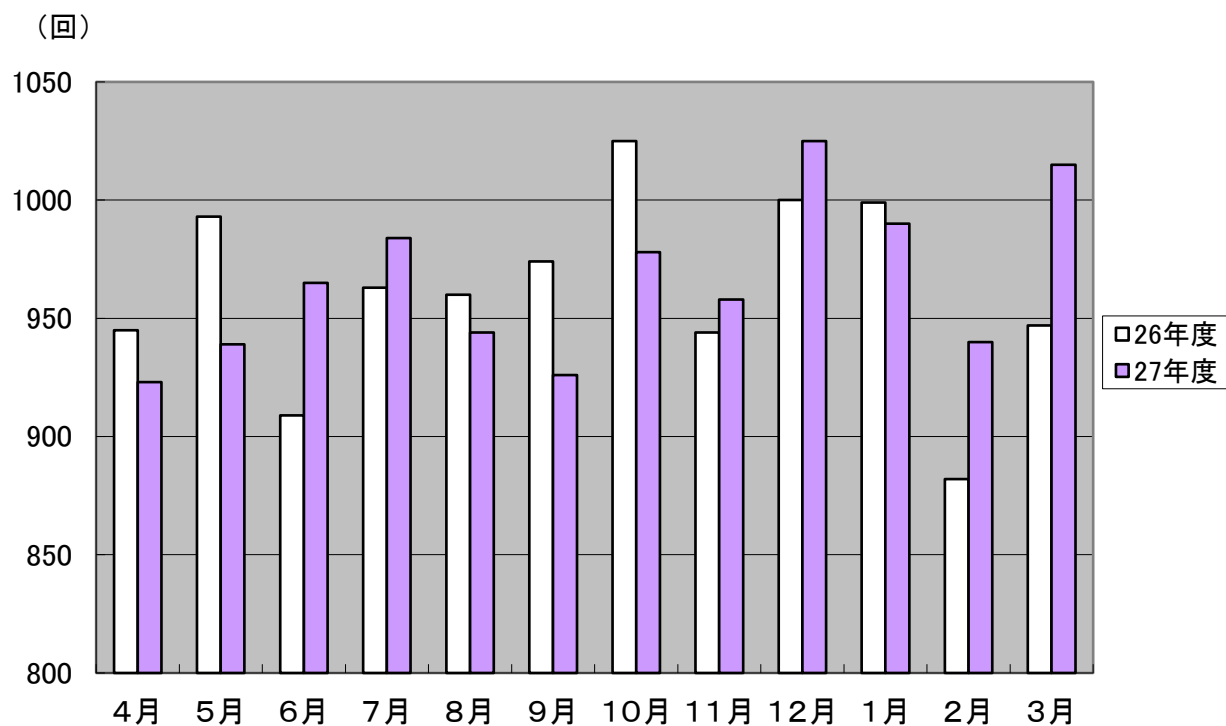
透析	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	74	77	75	73	75	77	76	77	76	77	74	75	906
27年度	73	76	76	75	75	73	79	79	79	79	80	78	922

③外来診療回数(一般)



一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	175	168	121	167	190	176	171	201	186	149	113	128	1,945
27年度	105	123	125	128	114	103	114	120	132	111	113	148	1,436

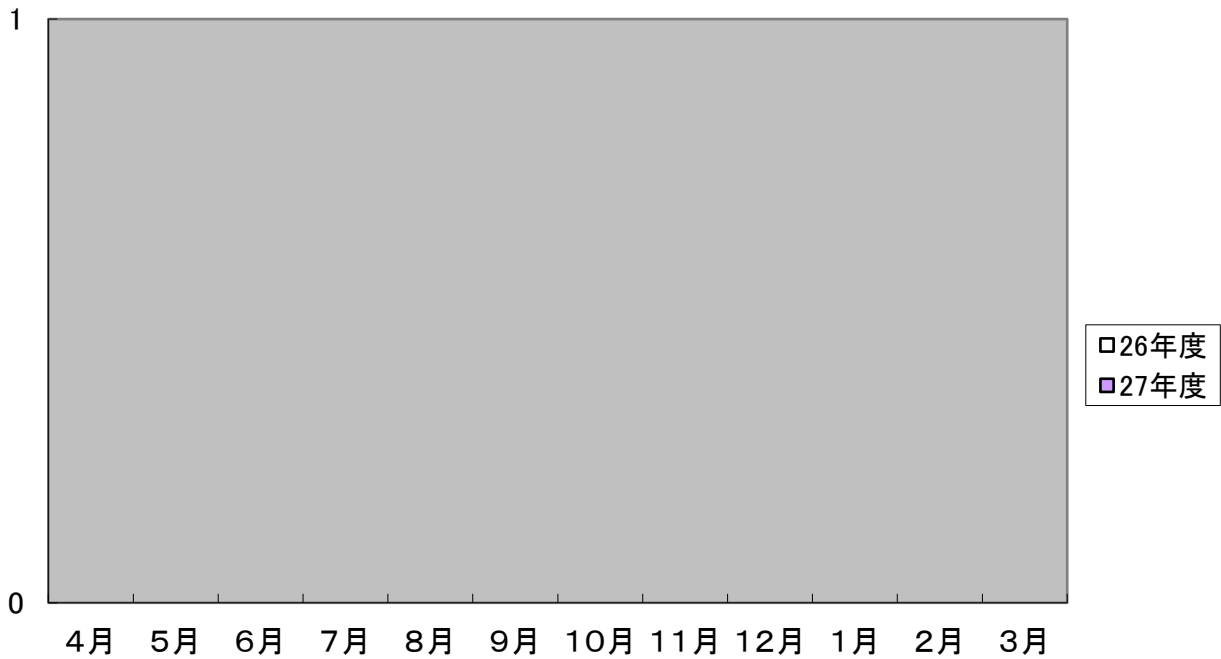
④外来診療回数(透析)



透析	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	945	993	909	963	960	974	1025	944	1000	999	882	947	11,541
27年度	923	939	965	984	944	926	978	958	1025	990	940	1015	11,587

⑤ 紹介受け入れ患者数

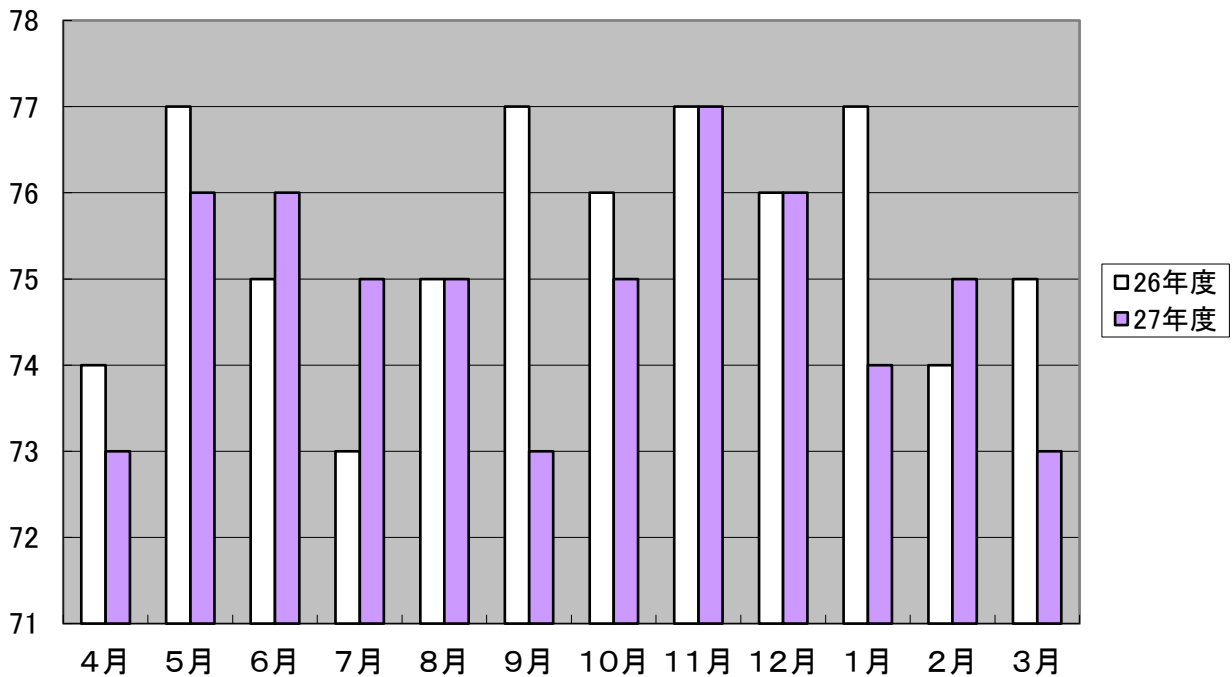
(件)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑥ 維持透析患者数

(人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
26年度	74	77	75	73	75	77	76	77	76	77	74	75	906
27年度	73	76	76	75	75	73	75	77	76	74	75	73	898

## ⑦ 健診件数

平成27年度	特定健診		学童腎検	労災二次健診	職場健診
	国保	社保			
4月	0	0	0	0	0
5月	1	0	0	0	0
6月	1	1	0	0	0
7月	1	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0
9月	1	0	0	0	0
10月	4	0	0	0	0
11月	1	0	0	0	0
12月	2	0	0	0	0
1月	1	0	0	0	0
2月	2	0	0	0	0
3月	3	0	0	0	0
小計	17	1	0	0	0
合計	18				

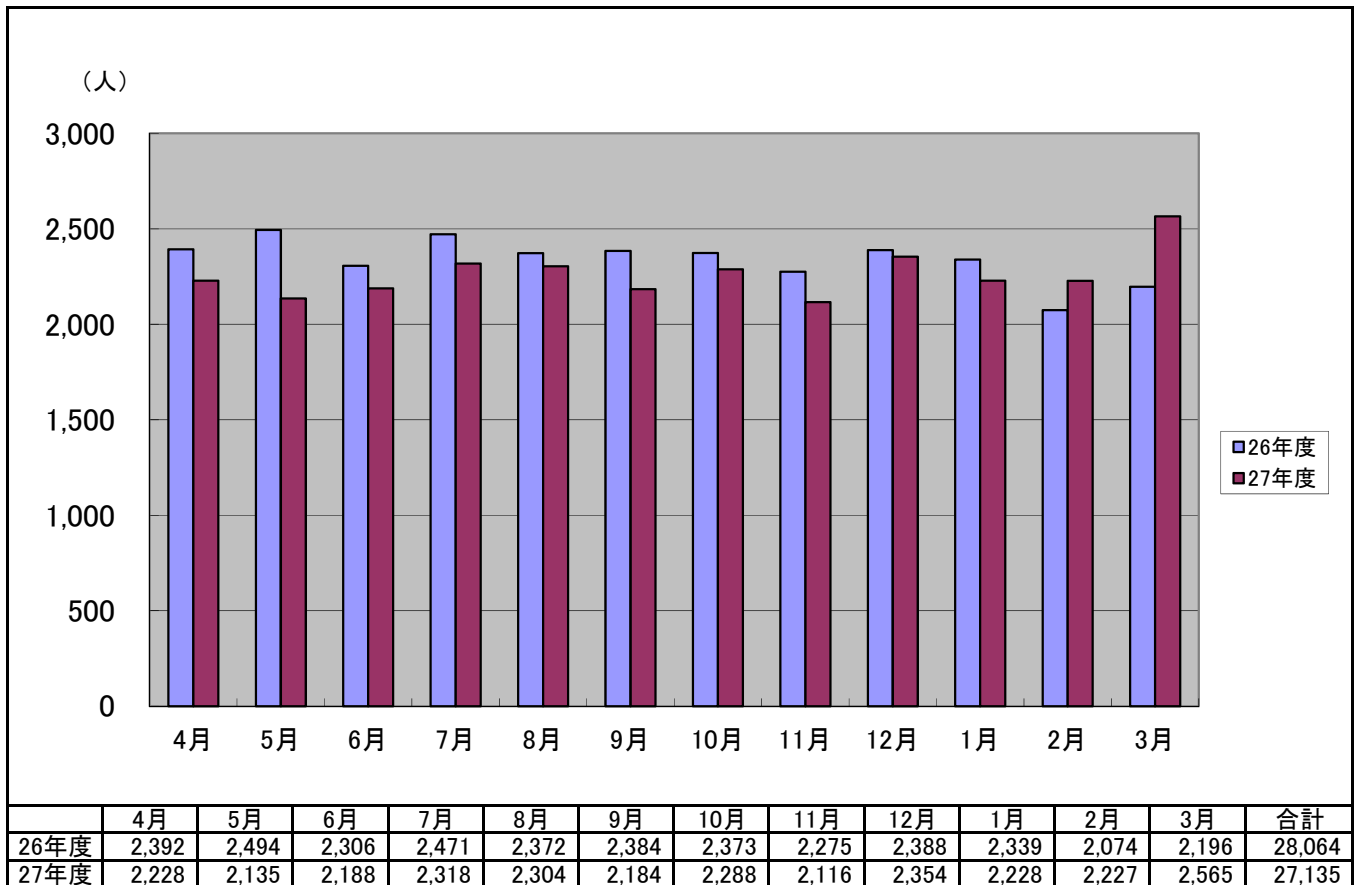
⑧ うえやま腎クリニック 臨床工学科データ

平成27年度うえやま腎クリニック 生菌検査結果

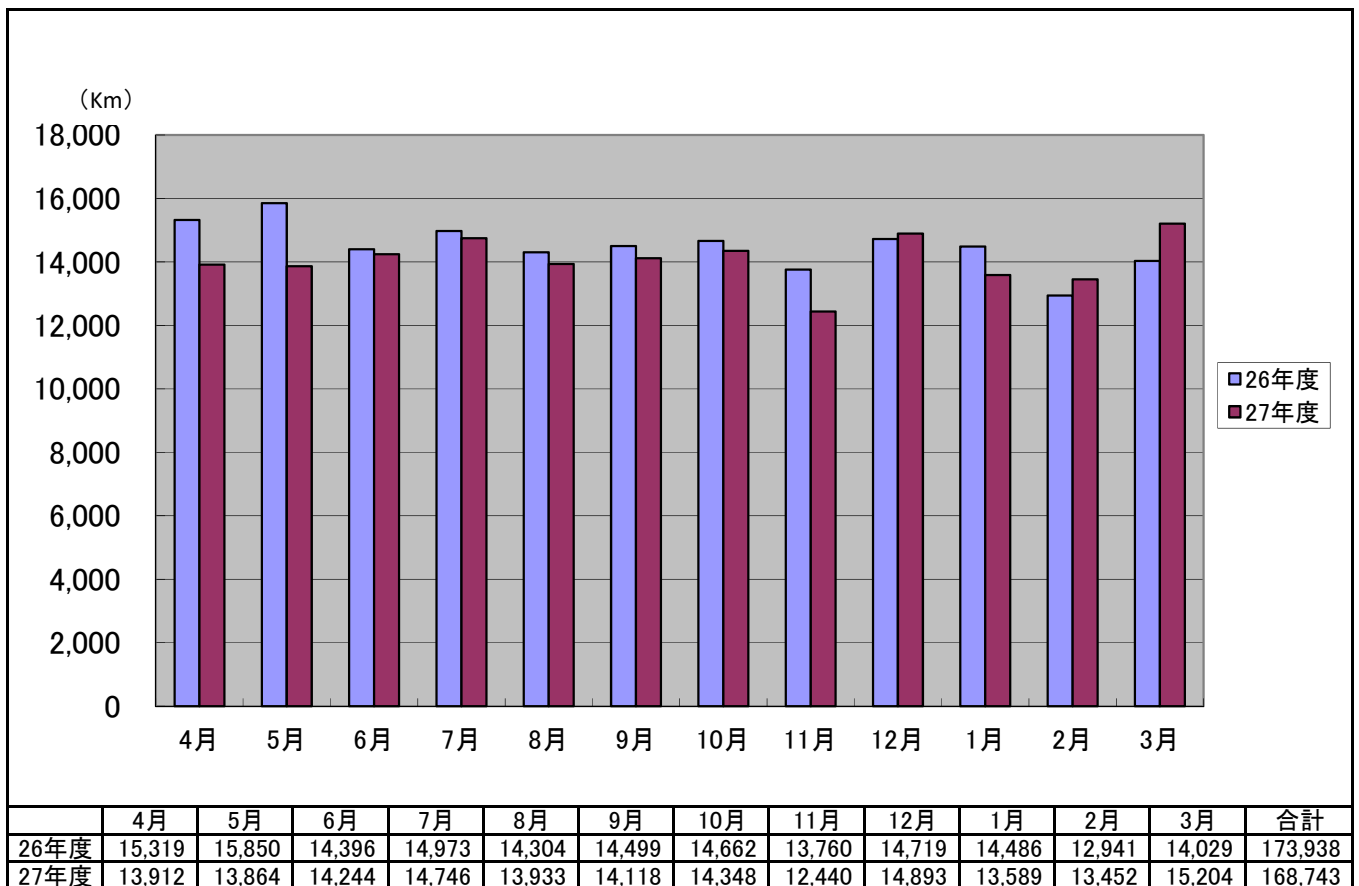
サンプリング場所	機種名	測定日	測定値(CFU/50mL)	測定値(CFU/mL)	備考
水道水					
原水	MIZ752C-H	2月15日	0	0	
軟水	MIZ752C-H	2月22日	100以上	2以上	
処理水	MIZ752C-H	2月22日	98	1.96	
UF		2月15日	7	0.14	
A剤自動溶解装置	A-HI	2月29日	0	0	
B剤自動溶解装置	DRY-01	2月29日	0	0	
多人数供給装置	DAB-50E	2月15日	3	0.06	
モルセップ(A)	ET-5E	2月29日	0	0	
モルセップ(B)	ET-5E	2月29日	0	0	
コンソール No.1	DCS-27	5月25日	0	0	
コンソール No.6	DCS-27	5月25日	0	0	
コンソール No.7	DCS-27	5月25日	0	0	
コンソール No.12	DCS-27	5月26日	0	0	
コンソール No.13	DCS-27	6月15日	0	0	
コンソール No.2	DCS-27	6月15日	0	0	
コンソール No.3	DCS-27	6月15日	0	0	
コンソール No.4	DCS-27	6月22日	0	0	
コンソール No.5	DCS-27	6月22日	0	0	
コンソール No.8	DCS-27	9月14日	0	0	
コンソール No.45	DCS-27	9月14日	0	0	
コンソール No.46	DCS-27	9月14日	0	0	
コンソール No.47	DCS-27	10月19日	0	0	
コンソール No.48	DCS-27	10月19日	0	0	
コンソール No.49	DCS-27	10月26日	0	0	
コンソール No.50	DCS-27	10月26日	0	0	
コンソール No.51	DCS-27	10月26日	0	0	
コンソール No.52	DCS-27	11月30日	0	0	
コンソール No.53	DCS-27	11月30日	0	0	
コンソール No.54	DCS-27	11月30日	0	0	
コンソール No.165	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.166	DCS-100NX	7月21日	4	0.08	
コンソール No.167	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.168	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.169	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.170	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.171	DCS-100NX	7月21日	1	0.02	
コンソール No.172	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.173	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.174	DCS-100NX	7月21日	0	0	
コンソール No.57	DCS-27	9月28日	0	0	
コンソール No.156	DCS-100NX	11月9日	0	0	
コンソール No.157	DCS-100NX	11月9日	0	0	
コンソール No.18	DCS-27	11月9日	0	0	
コンソール No.19	DCS-27	11月9日	2	0.04	
コンソール No.22	DCS-27	12月14日	0	0	
コンソール No.23	DCS-27	12月14日	0	0	
コンソール No.24	DCS-27	12月14日	0	0	
コンソール No.25	DCS-27	12月21日	0	0	
コンソール No.30	DCS-27	12月21日	0	0	

(3)送迎データ

①送迎延患者数



②送迎走行距離



#### (4) 職員データ

##### ①職員数（平成28年3月31日現在）

項目		HP	CL	本部	USK	計
所属法人	1 腎愛会	113	18	8	0	139
	2 USK企画	14	2	2	7	25
	計	127	20	10	7	164
勤務状況	1 常勤	82	6	7	19	114
	2 日勤	10	7			17
	3 短時間勤務	4	0			4
	4 契約職員	1				1
	5 嘱託職員				1	1
	6 非常勤	13	3		6	22
	8 休職	3	2			5
	計	113	18	7	26	164
性別	1 女性	80	15	3	21	119
	2 男性	33	3	4	5	45
	計	113	18	7	26	164
資格・職種	1 医師	11	1			12
	2 薬剤師	2				2
	3 診療放射線技師	2				2
	4 臨床検査技師	3				3
	5 臨床工学技士	7	1			8
	6 管理栄養士/栄養士	2				2
	7 理学療法士	1				1
	8 社会福祉士	2				2
	9 看護師	40	10			50
	10 准看護師	8	3			11
	11 ケアスタッフ	19	3			22
	12 技師助手	1				1
	13 医療事務	2			11	13
	14 一般事務	6		3	4	13
	15 営業事務/営業員				5	5
	16 技術員					0
	17 運転手	8				8
	18 清掃員				5	5
	19 その他			3	1	4
計	114	18	6	26	164	

②就業状況

	平均		男性		女性	
	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
勤続年数	7.6	7.4	7.7	7.4	7.4	7.4
平均年齢	41.2	41.8	44.9	46.8	40.0	39.8

退職率	平均		職員数		退職者数	
	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度
全体	9.7%	13.0%	134	138	13	18
男性	9.1%	7.7%	33	39	3	3
女性	9.9%	15.2%	101	99	10	15

復職率	26年度	27年度
	0.00%	0.00%

※パートへの復職を含む（育休・介休などの休職後の復帰を含まず。）

有給取得率	26年度	27年度
	74.1%	63.2%

※（27年4月から28年3月までの総取得日数）÷（28年3月現在で直近に付与された日数の総計）



医療法人 腎愛会 平成 27 年度年報

発行月 平成 28 年 9 月

発行者 医療法人腎愛会 法人本部